

7つの警告

ハイロ・パブロ・アウベス・デ・カルヴァーリョ

導入

聖書の歴史の中で、ラツパは神の民に警告を与えるために使用されました。「ラツパは会衆を召集し、陣営を出発するためのものである」と主は言われました (Nm.

10:2)。黙示録は、終わりの時には神の民がラツパの声によって導かれることを明らかにしています。あなたのタッチは、イエスが天の雲に乗って二度目に地上に戻ってくるときに、会衆を招いてイエスに合わせるのに役立ちます。聖書の時代には、「祭司」がラツパを吹きました (民10:8)。今日、「私たちには、天に渡られた偉大な大祭司、神の子イエスがいます」 (ヘブライ人への手紙 4:14)。神は天からラツパを吹いて地上の民を導きます。あなたの着信音の声は、主から民に送られたメッセージになります。それらは黙示録の第 8 章から第 11 章に「七つのラツパ」というタイトルで出てきます。彼らの声を聞くということは、彼らを正しく理解し、彼らが充実しているかどうかを確認することを意味します。したがって、この預言を研究することは非常に重要です。

この本の目的は、この重要なメッセージを明らかにし、「鐘の音を聞きたい」と願うすべての人が主に会う準備ができるようにすることです。聖書自体で提案されている学習方法を使用して、一節ずつ学習していきます。私たちは聖書を独自の解釈者にします。「主の言葉は彼らにとって、戒めに戒め、戒めに戒め、規則に規則、規則に規則、ここには少し、あそこには少しである。」 (イザヤ書 28:13)。あなたが読んでいるときに、神があなたを祝福し導いてくださいますように。真理に感銘を受け、キリストが二度目に来られるときの、キリストとその民との素晴らしい最後の再会という偉大な呼びかけへの招きに応えるよう励ましてくださいますように。アーメン。

第1章

ヨハネは第 8 章でラツパの預言の説明を始めています。私たちの研究はこれに基づいており、次のように始まります。

空の沈黙

「そして彼が第七の封印を解いたとき、天には半時間ほど沈黙があった。そして私は七人の天使が神の前に立っているのを見た。そして七つのラツパが彼らに与えられた。」 (黙示録8:1,2)。

聖書は、天国が病的な瞑想に専念する人々で満ちた静かな場所ではなく、天使の歌によって喜ばれ、活動に満ちた場所であることを明らかにしています。

彼女はいくつかの場所で、天使たちがどのように「明けの明星が喜びとともに歌い、神の子たちはみな喜びの叫びをあげた」（詩 38:7）様子を示しています。ヤコブは夢の中で「そのてっぺんが天に届くはしご」を見ました。すると見よ、神の御使いたちがそこを上り下りしていた」（創世記28:12）。「彼らは…全員…救いを受け継ぐ人々のために仕えるために遣わされたのです」（ヘブライ人への手紙 1:13）。天では天使たちが絶え間なく地上を行き来しています。その総数は「何千、何百万…」

(ダニエル 7:10)。人々が救いの道を見つけてそこに忍耐できるよう助けるという働きにおいて、誰もが積極的かつ秩序正しく動いています。このことを知ると、「天には沈黙があった」という黙示録の言葉がより意味のあるものになります。極めて重要な出来事だけが、全員を一斉に沈黙させるだろう。そして、非常に厳粛な瞬間が訪れます。天の住人たちは賛美の歌をやめてその光景を熟考します。そして私は七人の天使が神の前に立っているのを見ました、そして七つのラッパが彼らに与えられました。あなたの一時停止には正当な理由があります。7つのラッパが歴史の最後の瞬間を告げる：「我々全員が眠るわけではないが、最後のラッパの瞬間に、一瞬のうちに、我々は皆変わるだろう。なぜなら、ラッパが鳴り響き、死者も変わるからである。朽ちない者として育てられ、そうすれば私たちは変えられるだろう。」 「というのは、主ご自身が……神のラッパとともに天から降ってこられるからです。そして、キリストにある死者たちがまずよみがえります。それから、生きていて残っている私たちも、彼らとともに雲に引き上げられ、天の中で主にお会いするでしょう。」空気」（1コリント15:51,52）。最後の7番目のラッパが鳴ると、イエスはご自身のものを求めて天の雲に乗って戻ってきます。天使たちがイエスの手からラッパを受け取って吹き鳴らしているのを見て、天上の存在たちは、真理と誤り、キリストとサタン間の争いの最後の場面がこれから展開しようとしていることを理解します。ラッパの吹奏は、地上に生きる最後の世代の人々を、イエスとその言葉の真実を受け入れるか、それとも永遠に拒否するかに導くでしょう。世界にとって最後のチャンス、最後の決断の時が来た。

男たちを救う最後の努力

多くのことが危険にさらされています。イエスはこう言われます。「父よ、あなたがわたしに与えてくださった人々が、わたしのいるところにもいいのです。」（ヨハネ17:24）実際、神が全人類の救いのために支払った代価に見合ったものを生み出すことに多くの関心が寄せられています。したがって、それらは神の血によって獲得された所有物であると主張してください。彼らのために御父にとりなして、広く完全な許しと御座への御参加を求めてください。一方、サタンは「私たちの兄弟を告発する者」として行動します（黙示録 12:10）。この場面は裁きの一つです。「そして何冊かの本が開かれました。そして別の本が開かれました、それは人生の本です。そして死者たちは、その書物に書かれていることと、その行いに応じて裁かれた」（黙示録20:12）。「わたしたちは皆、キリストの裁きの座の前に出ます」（ローマ14:10）。

このように、どの人々が永遠の命にふさわしいかを決定する人々の裁きが天国で進む中、イエスはご自分を信じて忠実であったすべての人々の訴訟を訴えます。父よ」（マタイ 10:32）。告発者にこう言いなさい、「主よ、あなたを叱責されます。

サタン……これは火の中から拾われたブランドではないのか？」（ゼカ 3:2）。ただし、誰もが擁護できるわけではありません。「…しかし、人々の前でわたしを否認する者は、わたしも天におられるわたしの父の前でその人を否認するであろう。」（マタイ10:32）と彼は言いました。

サタンによって魂を奪われたことは、イエスに大きな悲しみをもたらしました。したがって、それを避けようとして、神は人間に恵みの時が終わりつつあることを警告しようとするでしょう。ヘブライ人に与えられた儀式の中で、イエスは保護観察の終了に関連してラッパの役割を教えました。彼はモーセを通して人々に宗教年を祝うように指示しました。これは、救いの計画全体の展開を表していました。そこでイスラエル人は毎年、この重要な教訓を記憶に留めてきました。この年は第7月の「贖いの日」と呼ばれる日に終わりました(レビ 25:8,9)。その中で、民は皆、神の前で自分の魂を苦しめ、自分の罪を消し去ることができるように告白しなければなりません。その同じ日に、苦しめないすべての魂は神の民から切り離されるからです。」そしてあなたのすべての罪から清められなさい」(レビ記16:23,28,29,30)。イスラエル人が自分の魂を苦しめず、神に罪を告白しなかった場合に被った損失は莫大なものでした。「苦しめなければ、すべての魂は神の民から根絶される(排除される)ことになる」のです。彼はもはや親戚や同胞たちとの交流を楽しめなくなり、受け取るはずの相続財産であるカナンの地を失うことになる。すべてを失いました。警告を受けずに誰かがこの不幸に見舞われるのを防ぐため、神は憐れみ深く、贖罪の日の数日前に警告を発することを決定されました。「イスラエルの人々にこう言いなさい。『第七の月、月の初めに、ラッパの音を聞きながらあなたがたは休むであろう』」(レビ記23:24)。贖罪は第7月の10日に行われ(レビ記23:27)、その初日に警告のラッパが鳴らされました。そうすれば、多くの人が土壇場で準備を整えることができた。

儀式は現実の影だった。宗教的な一年は贖罪の日に終わりました。

同様に、イエスは「贖い」の時に人間のために働きを完了します。贖罪の日の前に、人々がラッパの吹き鳴らしを通して自分の罪を告白するよう警告されたのと同じように、終わりの時にも同じことが起こります。イエスは7人の天使を遣わしてラッパを吹き鳴らし、地上に住む人々に恵みの時が終わりに近づいていることを警告します。天国の住人は私たちがこの研究で何を研究しているかを知っています。天使たちが彼らに触れるという使命を受け取るその瞬間の到来を見て、彼らが沈黙するのも不思議ではありません。世界にとって最後の決断の時が来た。神はその無限の愛において、イエスを通して慈悲の最後の警告を送られる。最後のチャンスを掴むのは誰だ？

ラッパを受け取った天使たちは「神の前に立った」者たちでした(黙示録 8:3)。天使の数は「何千、何百万」(ダニエル 7:10)です。これらすべての中で最も強い者は神の御前で奉仕します。サタンと対峙する天からの強力な天使であるガブリエルは、天の法廷で高い地位を誇示しながら、イエスの母マリアに現れ、「私は神の前に立つガブリエルです」と宣言しました(ルカ1:19)。「神の前に」いる最も強力な天使たちは、地上の救いの候補者に最後の警告を与える任務を負っています。天は人々を救うために最後の最大努力をし、その中で最大限の力を発揮します。この中には、「すべての人が救われて真理を知るよう願っておられる、私たちの救い主なる神が現われている」(1テモテ 2:3,4)という愛が表れています。

キリストは今でも人々のために執り成しを行っています

ヨハネは、天使たちがラッパを受け取った直後に、「別の天使がやって来て、金の香炉を持って祭壇に立った。そして、すべての聖徒の祈りとともに玉座の前にある黄金の祭壇に置くために、たくさんの香が彼に与えられました。そして聖徒たちの祈りとともに香の煙が天使の手から前に立ち上った

神。そして天使は香炉を取り、祭壇の火で満たし、それを地に投げました。その後、声、雷鳴、稲妻、地震が起こりました。そして、七つのラッパを持った七人の天使たちが、それを吹く準備をした。」（黙示録 8:3-6）

モーセが建てた聖所の儀式では、祭司が香を捧げる責任がありました。30:8)。これは「芳香の香辛料」で調合され、「調香師の技術によれば、味付けされた、純粋で神聖な香水」となった（出エジプト記 30:34,35）。彼は地上におけるキリストの生涯の純粋さと神聖さを表していました。香炉の残り火の上でお供えする必要があります。燃やされると、香水が吐き出され、聖域を満たすと、子羊や他の犠牲動物の腐った血の悪臭を圧倒しました。したがって、これはイエス・キリストの働きを表していました。パウロは、ヘブライ人の祭司たちは「天的なものの模範であり影」として奉仕していると述べました（ヘブライ 4:13）。

8:5)。それらは、救いの計画を実現するためにイエスが何をなさるのかを表していました。「というのは、キリストは、真の聖所の一種である、手で造られた聖所に入るのではなく、天国そのものに入り、今、私たちのために神の御前に現われるからです。」彼は「このような大祭司であり、天において陛下の御座の右に座し、人間ではなく主が建てられた聖所と真の幕屋の大臣である」（ヘブライ 9:22; 8) :1,2)*。お香の良い香りはキリストの生涯と人格を表していました。使徒はこう述べています。「神に感謝します。神は常に私たちをキリストにおいて勝利させ、私たちを通して神の知識の香りをおゆるる場所に現してください。」（IIコリント 2:14,15）。

この文脈において、イエス・キリストは、神の御前に立つ黄金の祭壇上のすべての聖徒たちの祈りとともに、真の香の良い香り、つまり罪のない生涯を御父に示します。そして、聖徒たちの祈りとともに、神の御前で天使の手から香の煙が立ち上りました（黙示録 8:3,4）。この表現は、キリストのとりなしが神に受け入れられたことを示しています。聖徒たちの祈りは、罪の悪臭に汚染されていても、キリストの完璧で罪のない命の良い香りと混ざり合って愛の父に届きます。地上の聖所で、線香の匂いが動物の腐った血の悪臭を覆うのと同じように、神の義は聖徒たちの罪を覆います。キリストにあって聖徒たちと彼らの祈りは受け入れられます。人間は御子の人格として神に受け入れられます。天使たちがラッパを受け取った直後に与えられたこの幻は、彼らがラッパを吹き始めた瞬間に、イエスが依然として人間のために執り成してくださることをヨハネに明らかにします。このように、ラッパの吹奏で表現される判決は破壊的であるかもしれないが、彼らのために執り成してくれる仲介者がまだいるので、神は彼らを救いたいと望んでいるという警告を表している。終わりは近づいていますが、後悔する時間はまだあります。その一方で、この時、人間に与えられた恵みの時は永遠に終わることも示されています。

猶予時間の終わり

「そして天使は香炉を取り、祭壇からの火で満たし、それを地に投げました。」

(アプト 8:5)。

イエスは香炉を投げます - 彼はもはや人々に有利に自分の義を提示しません。この行為はキリストのとりなしの終わりを表します。そのとき、神の怒りは憐れみと混じり合わずに、反抗的で罪を犯したホームレスの頭に降りかかるでしょう。この真実はヘブライ人の歴史の中で実証されています。かつて、イスラエルの民が神に対して大胆に反逆したとき、疫病を引き起こし、多くの命を奪いました。そのとき、大祭司アロンが香をいっぱい入れた香炉を持って立って、

疫病でこれ以上人が死ぬことのないように、人々の間で。聖書の記述は次のように述べています。それから彼らは彼の顔にひれ伏したので、モーセはアロンに言った、「香炉を持ってきて、祭壇から火を入れ、その上に香を置き、急いで会衆に行き、彼らのために償いをしなさい。」大きな憤りが主の前から出たからである。疫病はすでに始まっています。そしてアロンはモーセが言ったようにそれを受け取り、会衆の真ん中に走って行きました。そして見よ、人々の間で疫病が始まった。そして彼はそれに香を焚いて民のために罪を償った。そして彼は死者と生者の間に立っていた。そして疫病は止まりました。」（民 16:44-48）。アロンが疫病を抑えるために香の煙を差し出したのと同じように、キリストのとりなしにより、御父に義の香を差し出すことで、最後の七つの災いを通じて神の怒りがほとぼしるのを防ぎます。これらが注がれるとき、それらは慈悲を混ぜることなく注がれます(黙示録14:10)。神は、望むならすべての人に悔い改めて救われる機会を与えるために、悪人に対する正義の報復裁きを保留しておられます。イエスが香に象徴されるように正義を提供し続ける一方で、憐れみの招きは人間にも差し伸べられます。

しかし、最後の人がすでにこの地上で生死を決めるのを見たとき、イエスは香炉を投げます。そうすれば、もう慈悲はありません。

イエスが香炉を投げるのを見てすぐに、ヨハネは「そのとき、声、雷鳴、稲妻、地震が起こった」と報告しています(黙示録 8:5)。この記述は、黙示録の 7 番目で最後の疫病の噴出後に私たちが見つけたものと同じです。「そして、第 7 の天使がボウルを注ぎました...そして、声、雷鳴、稲妻、そして大地震が起こりました。」(黙示録) .16:18)。

これは、イエスが香炉を投げた後、最後の七つの災いが降り注いだことを裏付けています。理解を容易にするために、比較を示してこれらすべてをもう一度説明しましょう。

黙示録 8:5: 「そして、天使は香炉を取り、それを地に投げました。

その後、声、雷鳴、稲妻、地震が起こりました。」

黙示録 16:18: 「そして、第七の天使はその鉢に注いだ...

そして声が聞こえ、雷鳴があり、稲妻があり、そして大地震が起きた。」

報告が一致していることに注目してください。これは、両方が同じイベントを参照していることを示しています。イエスが香炉を投げた後、それからしばらくして、声、雷鳴、稲妻、地震が起こりました。しかし、これは第七の災いについての記述です。したがって、次のように結論付けられます。

七つの災いは免れます。

第七の災い :声、雷、

稲妻と…地震 (黙示録 16:18)

|-----|

イエスは香炉を投げます...

それから…声、雷鳴、

稲妻と地震 (黙示録 8:5)

黙示録 8 章 5 節の後の表現は、最後の 7 つの災いが降り注ぐ時期を指しており、「声、雷、稲妻、地震」という出来事が成就する 7 番目の災いで終わります。テキストの意味は次のとおりです。イエスが香炉を投げると、その後（第七の災いのとき）声、雷鳴、稲妻、地震が起こりました。

キリスト、天使？

香炉を捧げるのはキリストです。ヨハネは、「別の天使がいて、彼は金の香炉を持って祭壇のそばに立っていました」（黙示録8:3）と述べています。それでは、キリストは天使なのでしょうかと疑問に思う人もいるかもしれませんが。原文では「天使」と訳されている言葉は「使者」を意味します。したがって、イエス・キリストを神の使者として指すこともあります。

黙示録は「神が与えられたイエス・キリストの啓示」であることを忘れないでください。

1:1)。この幻視では、イエスが7人の天使に地上の人々に警告、つまり7つのラッパを送るよう命じているように見えるため、この用語の使用は適切です。

第 2 章 - 最初のトランペット

「そして、七つのラッパを持った七人の天使たちが、それを吹く準備をしました。そして最初の天使がラッパを吹くと、雷と血の混じった火が降り、それらは地に投げ込まれ、地の三分の一が焼けた。木々の三分の一は焼け、緑の草はすべて燃え尽きた」（黙示録 8:6,7）。

サライバとは、雷や石の雨に与えられた名前です。雷は通常、氷の石によって形成されます。しかし、物語の中で、ジョンは石と火の幻を見ました。

今日では、空に白熱の石の雨が降るのがよく見られます。人々はそれらを「流れ星」と呼んでいます。これらは隕石、つまり時速 80,000 km に達する速度で移動する小さな石としても知られています。

雲から地面までの距離を 1 秒でカバーします。高速で移動するため、空気とこすって（こすって）加熱し、発火します。テーブルの天板や滑らかな木片を手で素早く力強くこすってみてください。すぐに「暖かくなった」と感じるでしょう。これは、隕石が発火するのと同じ効果です。彼らの場合、高速で移動するため、非常に加熱されて蒸発し、煙になります。したがって、流れ星は「突然」消えることがわかります。多数の流星が同時に落下することを「流星群」と呼びます。

私たちの時代では、それらは一般的です。地球上のいくつかの場所では、一年の同じ時期に常に発生する流星群「プレアデス」が見られます。



ジョアンさんは、隕石のシャワーが空中で蒸発せず、火の玉のように地表に到達し、動物、人、家、車、建物に落ち、木々を焼き、あらゆるものを破壊するのを見た。地球はその第三部分で焼かれます(黙示録 8:7)。NASAは、以下のニュースに示されているように、従来の隕石シャワーがより激しくなっていることを確認しました。

NASAは隕石群に備える：

2011年10月、りゅう座流星群は通常よりも暴力的になるでしょう

2010年6月18日



- 国際宇宙ステーションはリダイレクトされる可能性があります

NASAは、10月初旬に空を横切りりゅう座流星群（周期彗星21P/ジャコビニ・ツィナーに関連する）の間に、地球を周回する人工衛星や探査機がさらされるリスクの評価を開始した。

この「岩嵐」は毎年起こるもので、何の問題もありません...
しかし研究者らは、2011年10月8日の流星群は通常よりも激しい流星群になると考えている。小さな岩が衝突して、国際宇宙ステーション（ISS）やハッブル望遠鏡などの宇宙船に損傷を与える可能性があるほどです。

マーシャル宇宙飛行センター (NASA)は、宇宙石のピークは1時間当たり数百個に達すると予想されると説明している。リスクは最小限ですが、研究者はこの仮説を無視したくありません。

<http://www.cienciahoje.pt/index.php?oid=43613&op=all> - 2010年10月13日にアクセス。

自然現象の破壊的な可能性が増大していることにより、黙示録のラッパに記されている出来事が文字通り成就する可能性があるると多くの人が信じるようになりました。

しかし、ここではコメントが必要です。そのような大惨事がいつ起こるかを科学が予測するのを待つべきではありません。科学は歴史的に、自然の要素によって引き起こされる大災害を正確に予測することも、その原因を適切に説明することもできませんでした。彼らは最近まで、地震は「地殻変動」と呼ばれる地下のプレートの移動によって引き起こされると信じていました。

したがって、ブラジルはプレートの接合部ではなく中央にあるため、実質的に地震の影響を受けないと彼らは述べた。しかし、国内で複数の地震が発生し、首都ブラジリアにまで達した後（2010年10月）、科学的な説明が変わりました。現在、それらは地球の別の地下層であるリソスフェアに関係していると考えられています。そして、預言で予言された出来事が彼らを驚かせるにつれて、説明は変化し続けるでしょう。洪水の時のようになるでしょう。当時の科学者たちは神の言葉を信じず、箱舟に入りたくありませんでした。したがって、彼らは天気予報に関するあらゆる知恵を駆使して、洪水の中で命を落としました。

「わたしは賢者の知恵を滅ぼし、知性のある者の知性を滅ぼす、と書いてあるからである。賢者はどこにいる?...今世紀の探究者はどこにいる?神はこの世の知恵を愚かなものにしたのではありませんか?世は神の知恵によって神を知りませんでしたから、宣伝するという愚かさによって信者を救うことを神は喜ばれたのです」（コリント1:19-21）。したがって、科学者がラッパの預言がいつ成就するかを正確に予測すると考えるのは賢明ではありません。彼らにとって、それは「警告なしに」やってくるでしょう。預言の言葉を信じて今日からその出来事に備える人だけが、それに直面する正しい立場に立つことができます。

黙示録に戻ると、最初のラッパの成就の即時的な影響がすぐ感じられるでしょう。土地の植生の3分の1が焼失すると、農業生産量が減少し、その結果、大都市や中規模都市のスーパーマーケットでは品不足が生じるだろう。需要よりも供給が少なくなるため、食料の価格は上昇します。そして、大勢の親や経済的に恵まれない人々がスーパーマーケットや食料品店を略奪する姿が見られるだろう。

大衆を封じ込めるために警察が出動するのは明らかだ。人々は飢えて死ぬか、家族の食糧を確保するために警察に直面するかの間で確実に第二の選択肢を選択し、その結果、特に大都市や内戦で紛争が起こるだろう。現時点では、飢餓と社会不安が存在する場所に住みたがる人はいないため、今日のように大都市の不動産に投資したい人はいないでしょう。都市部の好立地にある現在数百万の価値がある不動産は、一夜にして事実上無価値になってしまうだろう。借り手が銀行から取得するローンの価値よりもはるかに低い価値の不動産を手にするようになるため、不動産バブルは再び崩壊します。銀行は危機に陥り、政府には銀行を修復するための資金がなくなるだろう。株式市場は下落し、その結果多くの富裕層が貧困になるだろう。社会の価値観はすぐ変わります。この時点で、売らなかったことを後悔する人は多いだろう。

多くの人を救うメッセージ、つまり黙示録の福音を説くためにその価値を投資しました。この言葉を知っていながら、それを適時に宣べ伝えなかった人々は、「こういうことが起こることは分かっていたが、こんなに早く起こると思わなかった！」と言うでしょう。そして他の人はこう答えるでしょう。私たちは知りませんでした。」ですから、今日わたしたちが警告を発し、ラッパの預言についてのメッセージを広めることはどれほど重要なことでしょうか。これは夢や単なる憶測のように思えるかもしれませんが、すぐに多くの人が神の言葉を信じなかったことを後悔するでしょう。そうになると、ほとんどの人にとっては手遅れになります。あなたの命は恐ろしい裁きによって奪われるでしょう。

これに関連して、地球の3分の1が影響を受けており、同時に非常に多くの場所で混乱が発生し、国連や他の国の救助チームが緊急事態に対応することは不可能になるでしょう。何千人もの人々が餓死を宣告されるだろう。私たちがエチオピアと一部のアフリカ諸国でしか見なかったことが、世界のさまざまな地域の都市中心部でも現実となるでしょう。これらすべてを一晩で行いました。

抜け出す方法: 大都市から出て、自分たちで食べ物を育てる

聖書には、神に従う人々に対する教えと慰めが満ちています。危機の時代が近づくと、神の民は大都市から遠く離れたところにいることを実感しなければならぬ、と長い間教えられてきました。だからユダヤにいる者は山へ逃げなさい。町の真ん中にいる者は立ち去りなさい。そして野原にいる者はそこに入ってはなりません。なぜなら、これらは、書かれたすべてのことが成就されるための復讐の日々だからです。しかし、その時代に妊娠している人たちと出産する人たちには災難が降りかかります。この地には大きな苦しみがあり、この民には怒りが起こるだろう。」

(ルカ21:20-23)。最初のラッパが成就した後、自分で食べ物を育てることができる小さな土地を畑に持っている人は、王や女王とみなされるでしょう。現在、市場でほぼ無料で購入できる野菜や果物は、金のような価格で求められるようになるでしょう。神の子供たちが神の計画に従って田舎に移住するのは良いことです。神はアブラハムと契約を結んだとき、当時現代のカルデア人の都市ウルに住んでいた親戚たちからアブラハムを引き離し、マムレの榎の木立の隣に住まわせました(創世記14:13)。田舎。モーセはミディアン人の砂漠でイスラエルの民を導く準備ができていました。洗礼者ヨハネは人けのない場所での使命に備えていました。聖書には、神がご自分の僕たちを田舎のあまり人口の少ない場所に連れて行き、そこで彼らにご自身を現すことができることを示す例がたくさん出てきます。この終わりの日に、神の契約を受け入れ、信仰によってアブラハムの模範に従い、その子供となる人々は野原に住むでしょう。彼らは、最初のラッパが成就する恐ろしい時代に起こる多くの困難から救われるでしょう。彼らは自分たちで食べ物を育てることができるようになります。

今日、この恐ろしい時期に直面し、家族の苦しみを軽減できる立場にあるためには、十分な準備が必要です。あまりにも悲惨な出来事ではあるが、神はこの恥辱が地上に降りかかることを許されるだろう。神がそれを引き起こしたわけではありません。これを信じる十分な証拠があります。何十年にもわたって宇宙に送り出された船、人工衛星、望遠鏡などのさまざまな機器は、宇宙空間の物体の微妙なバランスに影響を与えることに貢献しています。以前は地球を取り囲んでいるだけだった天体は、人間によって進路を変更され、地球に衝突し、最も恐ろしい災害を引き起こすでしょう。「それゆえ、彼らは自分たちのやり方で実を食べるのです」(箴言 1:31)。これがラッパの預言が成就する方法です。人は次のような裁きを刈り取るでしょう。

あなたの悪い行いの結果。そして、終わりを最初から知っている神は、自分の行動がどのような結果をもたらすかを事前に告げ、これがキリストの再臨を告げる七つの警告の最初であると主張します。

これまで見てきたように、田舎に家を求めるという意味での神への従順は、この災難による「物理的な」影響の多くを逃れる手段となるでしょう。しかし、ラッパは警告であり、永遠の命という、もっと恐ろしい損失を避けるための準備を呼び掛けるものです。イエス・キリストを通して人間が神と和解し、神を信頼して不従順からすべての戒めへの従順に転換することは、人間に対する天からの最後の呼びかけの一つである。本文には、火には「血が混じった」（黙示録 8:7）と書かれています。血は火と混ざらないので、この一節を文字通りに理解する方法はありません。彼はそれを燃やします。この表現は精神的な意味で理解されます。レビ記 17:11 には、「命は血の中にある」とあります。イエスはカルバリの十字架で血を流して私たちのために命を捧げましたが、これは私たちに對する神の憐れみの証しでした。破壊の天使がエジプトの地の初子を殺したとき、門柱に血を塗られた人々の家の上を通り過ぎました。私たちの命はキリストの血の功績によって保たれます。それが最初のラッパで告げられた裁きと関連しているという事実は、それが慈悲と混合されることを示しています。恐ろしく破滅的ではありますが、神は慈悲によってその影響を制限し、各人間にとって最善の利益をもたらすことを目指して状況全体を管理します。この判決は良心の目覚めとなり、人々はこの世の出来事がいかに儚いものであるかを深く考え、神がイエスを通して与えてくださる永遠の祝福を感謝することになるでしょう。それによって多くの人が救い主を受け入れ、その律法に従うようになるでしょう。

イエスはこう言われました。「もしあなたがわたしの戒めを守るなら、わたしが父の戒めを守り、神の愛の中に留まると同じように、あなたもわたしの愛の中に留まるでしょう。」「わたしの戒めを持ち、それを守る者は、わたしを愛する者である」（ヨハネ15:10,14:21）。

第3章 – 第2のトランペット

「第二の天使がラッパを吹き鳴らすと、彼は火で燃える大きな山のように海に投げ込まれ、海の三分の一は血と化した。そして海にいた生き物の三分の一は死に、船の三分の一は破壊された。」

(アブ 8:8,9)。

ジョンの時代には、今日の強力で洗練された望遠鏡は存在していませんでした。天文学はそれほど発達していませんでした。今日よく使われる用語は、

さまざまな天体を指しますが、当時は知られていませんでした。ジョンにとって、空から降りてくる大きな岩だらけの天体は、大きな山に匹敵しました。現在、科学ではそれを小惑星と呼んでいます。彼には山が海に投げ込まれているように見えました。落ちると投げられるのは違います。石を投げると、ただ地面に落とすよりもはるかに速く進みます。ジョンが使用した「打ち上げられた」という表現は、物体が猛スピードで飛行していたことを示しています。これは小惑星についての科学者の意見と一致しています。それらは直径数千メートルの巨大な岩石であり、時速10万キロメートルの速度で移動します。持つため

一つのアイデアとしては、雲から地球までの距離を 1 秒以内に移動できるということです。ジョアン氏は打ち上げという表現を使いましたが、その意味は小惑星が最終的に地球に接近する速度をより正確に表しています。彼にとって、これほどの速さで地上にやって来た石は、誰かが投げたものとは考えられません。

そこで、少しの間、自分を預言者の立場に置いてみてください。長さ数キロメートルの、火で燃えている巨大な岩の体を熟考してください。一瞬にして空の雲を突き抜けて海に落ちます。それはまさに「火が燃え盛る大山」としか言いようがありません。以前は、大きな小惑星が地球に衝突する可能性は考慮されていませんでした。しかし今日、科学者たちは、今後数年のうちに実際に地球が小惑星の影響を受ける可能性があるとして述べています。

影響が予想されるさまざまな発表が新聞で見られます。以下にもう 1 つだけ触れておきます。

2003/02/09 - 10時18分

小惑星が地球に接近中、2014年に衝突の可能性

フォーハオンラインより

地球にとって潜在的に危険な物体の監視を担当する英国機関の天文学者らによると、直径1キロ強の小惑星が地球に接近中で、2014年3月21日に衝突する可能性があるという。

しかし、少なくとも統計的には、これで世界が終わるわけではないようです。壊滅的な衝突が起こる確率はわずか 25 万分の 1 です。

2003 QQ47 と呼ばれるこの小惑星は、秒速 32 km、時速 11 万 5,000 km の速度で地球に接近します。直径は1.2キロメートルです...」

注: 上記のニュースを紹介するとき、私たちは第 3 のラップで予言されている出来事が 2014 年に起こると言っているわけではありません。それがいつ起こるかはわかりません。私たちはその予言が成就することを知っており、上記のニュースは、予言されたような衝撃が科学によってもはや不可能な出来事とは考えられていないことを証明しています。

影響の予想に直面して、米国のいくつかの大学の研究グループは、その結果がどのようなものになるかを計算するためのコンピューターシミュレーションを開発しました。一部のサイトでは、訪問者が小惑星のサイズや速度などのデータを入力し、シミュレーション結果を確認できるページをオンラインで提供しています。検索エンジンで「小惑星衝突結果」をクリックして選択するだけです。多くの研究の中でも、カリフォルニアの大学の科学者によって行われた研究が際立っています。彼らは、小惑星が海に落ちた場合にどのような結果が生じるかを計算しました。地球の大気圏を通過する高速移動のため、空気との摩擦により加熱され、ジョンが見たように、火が燃え盛る大きな山になります。その結果、体内の水は、

小惑星衝突の時点で海は沸騰し、水中の酸素は消費されるだろう。植物、魚、クジラ、甲殻類、その他の海洋動物は滅びるでしょう。無酸素環境は紅藻類の増殖に有利であり、紅藻類は正確に成長します。

このような環境。したがって、上から見た海は短時間で赤く染まります。

注目を集めるのは、科学者たちが提示した結論とジョンの報告が一致していることである。「そして、そこにいた生物の3分の1が死んだ。

海の中で」「そして海の3分の1は血（血 - 赤い色）になりました。他の研究では、衝突後の波の動きを示しています。小惑星の落下は、私たちが湖に石を投げたときに起こるのと同じようなことを引き起こすでしょう。落ちたところで円形の波が形成され、湖の端に達するまで広がっていきます。同じことが、もっと大きな規模で起こるだろう。予測によれば、大西洋の真ん中にある直径10kmの小惑星の衝突により、衝突点で高さ5kmの波が発生し、その波が伝播して高さ約500メートルの米国の海岸に到達するという。進路上のすべてのものを一掃し、大陸まで200kmまで進入します。この大津波、つまり波は多くの船を水没させ、「そして船の3分の1が破壊された」というジョンのビジョンを実現しました。



Figura - Tsunami

私たちが間もなく天体に衝突される可能性を考慮するという事実は、私たちが預言された出来事にどれほど近づいているかを示しています。科学者自身も、予言と同様のシナリオを予測しています。私たちは神の言葉に耳を傾けますか？

イベントの準備をしましょうか？私たちがそうしなければ、ノアの時代と同じことになるでしょう。彼らは結婚し、結婚し、ついには洪水が来て全員を連れ去ってしまいました。

小惑星が海に落ちると、発生した波がいくつかの大陸の何百もの沿岸都市を破壊します。人々は財産、家族、命を失います。今や貴重な海の景色を望むアパートメントは、もう誰もが欲しがらなくなる存在ではなくなります。多くの

彼らは、目の前にあるものすべてを飲み込む巨大な波によって、すべての貯蓄と一部の財産を失うことになります。観光客は連れて行かれ、沿岸都市や港湾都市によくある売春の巣窟は完全に破壊されるだろう。多くの人々が快樂の狂った追求を中断され、この世と永遠の命を失うことになるでしょう。美しい観光都市、官能、姦淫、あらゆる種類の放縦などの罪の中心地は水に埋もれるでしょう。彼らはその咎に応じて罰せられるだろう。この災難が第一のラッパのそれに加えられるため、援助団体は今度は混乱に直面して自分たちがまったく無力であることに気づくだろう。どこにでも絶望があり、「国々の間で苦しみ、海と波の轟音に当惑し、人々は世に起こることを予期して、恐怖で気を失いました」（ルカ 21:25,26）。

主は私たちへの愛のゆえに、「海の端に住む者たちは災いである」（ゼパ 2:6）と長い間警告してくださいました。彼は誰も滅びることを望んでいないので、海岸沿いの都市に住まないように皆に警告しています。耳のある人は聞いて、時間があるうちに家族を救い、大都市から遠く離れた大陸内の小さな都市の田舎に、自分たちで食べ物を育てることができる場所に移住してください。ここは神が神の民に提供した理想的な場所です。覚えておいてください：彼が男と女を創造したとき、「主なる神はエデンの園に園を植えられました...そしてそこに神は彼が形造った人間である」（創世記 2:8）。創造主は、私たちが安らぎを与えてくれる場所に住むことを計画し、そこでは私たちが絶えず神の御業を熟考し、その中にある私たちに対する神の愛を熟考することに喜びを感じることができました。これは、私たちが間もなく直面する災難と飢餓の時代の中で、私たちの安全な場所となるでしょう。そこは神が私たちのために計画された場所であるため、そこに住むことで、第三のラッパで予告されている裁きによって引き起こされる滅びからも守られると信仰によって確信できます。

第4章 – 第3のトランペット

「第三の天使がラッパを吹き鳴らすと、たいまつのように燃えながら大きな星が天から落ち、川の三分の一と水源に落ちました。星の名前はアブサンでした。そして水の三分の一はよもぎとなり、水が苦くなったために多くの人々がその水で死んだ」（黙示録 8:10,11）。

ジョンは、その姿が「たいまつのような」「星」を見た。ランプとトーチの違いは何ですか？トーチには最も明るい点があり、その根元には火の燃料があり、その上部には尾のように、根元から炎が立ち上っています。光る尾を持つ天体に今日私たちが付ける名前は「彗星」です。その核心または基部はより明るく、「尾部」と呼ばれるガスで構成された後部も光ります。ヨハネは、これと同じような死体が海ではなく地表に落ちたのを見て、その衝撃の結果がどうなるかについて言及しています。「そして水の3分の1がよもぎになり、多くの人々が死んだ水が苦くなったから」

（黙示録 8:11）。彗星の衝突により、地球の表面に大きなクレーター、つまり穴が開きます。土を穴に突き固めるときと同じように、表面は土の中に押し込まれます。半径数百キロメートル以内の地下上下水道管、埋め立て地、放射性物質の堆積物などの構造全体が破壊されることになる。これらの放出された有毒物質の一部は、環境を汚染する可能性があります。

新鮮な地下水、いわゆる地下水。科学者たちは、このような衝撃で放出されるエネルギーは多くの原子爆弾の爆発に似ていることを知っています。

「2003 QQ47 と呼ばれるこの小惑星は、秒速 32 キロメートルの速度で地球に接近します。これは時速 11 万 5,000 キロメートルに相当します。天体情報センターの広報担当者によると、高度 1.2 キロメートル…この大きさの天体の衝撃は、約 60 年前に米国が広島に投下したものと同様の原子爆弾 2000 万発の爆発に匹敵するという。地球に近い、英国で」出典: Folha On Line、2003 年 9 月 2 日。

これに基づいて、影響による他の結果を想像することが可能です。引き起こされる破壊は、日本の都市で経験されるものよりもはるかに大きいものとなるでしょう。放出された放射線は数千キロメートルの陸地に影響を及ぼします。水はまた、彗星の核に含まれる放射線やその他の有毒物質によって汚染されるだろう。

その結果、水は有毒になります。ジョンは、衝撃の結果、水がよもぎに変わったのを見ました。この言葉は文字通り「毒」を意味します。その結果、これらの水を使用する多くの人が亡くなるでしょう。彗星にも同じ名前が付けられました。聖書では、名前はそれを受け取る人の性格と使命を表します。この 2 番目の意味の例は、救い主の誕生の発表に見られます。イエスという名前は「エホバが救う」という意味です。天使はこう言いました。「そして、あなたは彼の名前をイエスと呼ぶべきです。彼は彼の民を罪から救うからです。」

(マタイ 1:21)。ジョアンが見た星の象徴的な名前も、それが何を引き起こすかに関係しています。それはよもぎと呼ばれ、有毒で、水を毒し、水をよもぎに変えます。これらの水を飲む男性は汚染されます。ペストが全土に蔓延し、最初のラッパの結果として引き起こされた飢餓がさらに悪化します。そのとき、預言の言葉は文字通り成就します。「そして、多くの人が苦くなったので、水で死んだ」(黙示録 8:11)。第 3 のラッパで予測された影響は、第 4 のラッパの報告を満たす反応を引き起こす可能性がある効果も引き起こすだろうと私たちは理解しています。

第 5 章 – 4 番目のラッパ

「第四の天使がラッパを吹き鳴らすと、太陽の三分の一、月の三分の一、星の三分の一が消えた。そうすれば、その三分の一は暗くなり、昼の三分の一は輝かなくなり、夜も同様になるであろう。」(黙示録 8:12)

大きな天体の地球への衝突の結果をより深く理解するには、風船を手に取り、それに穴を開けてみましょう。何が起こるのですか？手が触れると、衝撃を補うために反対側が広がりながら「沈み」ます。さて、この風船には水が満ちており、いくつかの穴があったと考えてください。パンチを打つと何が起こるのでしょうか？風船の穴から水が出てきて、手で加えられた圧力を補います。水を満たした漏れやすい袋を絞ることによっても、同じ効果が観察されます。同じことが地球上でも、より大きな規模で起こるでしょう。彗星の衝突は地球の内層を動かし、地表で地震を引き起こします。内部を占める材料は、高温で溶解した液体材料で構成されています。

温度が高くなると、地球の「穴」から出てくる傾向があります。私たちの惑星には、実際には火山と呼ばれる「穴」がたくさんあります。これらの穴を通して、溶岩が高圧で噴き出します。彗星の衝突後、彗星が地表に与える「パンチ」によって発生した圧力は、多くの火山の爆発によって緩和されます。それぞれが数千トンの溶融金属、硫黄、有毒廃棄物、黒煙を空に投げ込み、太陽と空気を暗くします。この結果は、2010年10月にアイスランドでたった1つの火山が噴火し、ヨーロッパの航空便のほぼ半数がキャンセルされた後に見られたものと同様になるでしょう。火山の近くでは、煙ですべてが黒くなって、空は見えませんでした。



画像 1 - 地平線に広がるアイスランドの火山の噴火からの煙。



画像 2 - 地平線に広がるアイスランドの火山の噴火からの煙。



画像 3 – 日中に撮影された画像 – 火山からの煙により視界が損なわれている – 出典: BBC ブラジルビデオ。

上の画像から、聖書の本文がどのように成就されるかがわかります。私たちのバージョンの聖書では、昼と夜の3分の1の間は星が輝かないことが理解できますが、他のバージョンでは、実際に地球の3分の1が衝突することが起こるという理解を与えてくれます。暗闇ではなく、星ではありません。そのとき、天は黒くなり、星の輝きは暗くなります。黙示録は、煙によって地球上に引き起こされる暗闇の影響、つまり星が見えなくなるについてコメントしています。例えばエルサレム聖書には次のような記述があります。昼は夜と同様にその光の三分の一を失った」（黙示録 8:12）。したがって、この預言は次のように成就する可能性があることを私たちは理解しています。地球の 3 分の 1 が火山の煙で空が黒くなるということです。結果を予測するのに科学者である必要はありません。光がなければ植物は成長できません。したがって、収穫物全体が失われ、第一のラッパの成就後に引き起こされる飢餓の問題がさらに悪化することになる。「各地で飢餓、疫病、地震が起こるだろう」（マタイ 24:7）というイエスの言葉は文字通り成就します。

ラッパの記述を読んでいるとき、最も疑いを持たない読者は、天使の呼びかけに応じて、イエスが流星、小惑星、彗星を地球に投げ込むように命令し、荒廃を引き起こし、不従順な人々に神の怒りを放つと考えるかもしれませんが。しかし、自然界の物事の順序そのものを少し考えてみると、そうではないことがわかります。空間のさまざまな要素が微妙なバランスに従って回転します。たとえば、私たちの惑星は毎日、24 時間ごとに自らの周りを公転しています。さらに、太陽の周りを 365 日 4 時間ごとに公転し、1 回転します。回転する地球の周りを、別の星、つまり月が回転します。いくつかの要素が同時に回転し、それぞれが独自のパスで互いの周りを回転します。これは、ある意味、ラッシュアワー時に何千台もの走行中の車が出会い、交差する大都市の大きな交差点に似ています。ルートから少しでも逸脱すると、大惨事が発生します。数台の車が山積みになり、すべての交通が停止します。人類は衛星、航空宇宙探査機、船を宇宙に送り込んできました。

地球上の生態系のバランスを崩し、数種の動物を絶滅させたのと同じように、宇宙のバランスも崩しているのではないだろうか？結果はどうなるのでしょうか？神が定めた通常の状態では、単に空の軌道を完了する星も、そのルートが変更されるのではないだろうか？神はこれについて責任を負うことはできません。聖書は、神ができる限りのことを行うことを明らかにし、イエスを通して人々に悪の道から立ち去り、罪を避けるよう警告しています。

自らの破滅：「至高の知恵が外から大声で叫びます。彼は街中で声を上げます。交差点で、混乱の真ただ中で、叫びなさい。門の入り口や街の中で、主は御言葉を発します。そして、軽蔑する者よ、軽蔑を望むだろうか？そして、狂人よ、知識を憎むのか？わたしの叱責によって改心しなさい。見よ、わたしはわたしの霊をあなたたちに豊かに注ぎ、わたしの言葉をあなたたちに知らせる。」(Prov.

1:20-23)。しかし、人々は自分たちのアドバイスに従って、自分たちが蒔いたものを刈り取るために警告のしるしを前に出しました。彼らはわたしのアドバイスを望まず、わたしの叱責を軽蔑した。したがって、彼らは自分の道で得た果実を食べ、自分の勧告に満足するでしょう。純朴な者の放浪は彼らを殺し、愚かな者の繁栄は彼らを滅ぼすからである」(箴言1:29-31)。

第6章 – 神の教会の目覚め。

「そして、七つのラッパを持った七人の天使たちが、それを吹く準備をしました。そして最初の天使がラッパを吹くと、雹と血の混じった火が降り、それらは地に投げ込まれ、地の三分の一が焼けた。木々の三分の一が燃え、緑の草もすべて焼けた。

第二の天使がラッパを吹き鳴らすと、彼は火で燃える大きな山のように海に投げ込まれ、海の三分の一は血と化した。そして、海にいた生き物の三分の一が死に、船の三分の一が破壊されました。

第三の天使がラッパを吹き鳴らすと、大きな星が天から落ち、たいまつのように燃え、川の三分の一と水源に落ちました。星の名前はアブサンでした。そして水の三分の一はよもぎとなり、水が苦くなったので多くの人が死んだ。

第四の天使がラッパを吹き鳴らすと、太陽の三分の一、月の三分の一、そして星の三分の一が打たれました。そうすれば、その三分の一は暗くなり、昼の三分の一は輝かなくなり、夜も同様になるであろう。」(黙示録 8:6-12)

黙示録 8 章では、最初の 4 つのラッパの記述が途切れることなく続きます。預言者ヨハネは、トランペットの中に注目すべき出来事は見当たりませんでした。これにより、一方ともう一方の間にはそれほど時間はかからないことがわかります。判決は次々と下されます。世界が一つの状況から回復して一息つく前に、別の状況が続き、4 番目の音が鳴るまで続きます。国際人道援助機関や NGO、援助団体は第4の惨劇の後、まるで悪夢から目覚めたかのように活動を開始するだろう。ヨハネの報告によると、神の僕たちでさえ、第4のラッパが鳴った後でのみ、説教し、世界に警告するために出て行っているのが見られます。、地上に住む者には災いあれ！まだ吹いていない三人の天使の他のラッパの吹奏のためである」(黙示録 8:13)。

人々の代わりにワシが説教したと書かれているのを見て驚かれるかもしれませんが。ただし、結論を出す前に、黙示録は真実が象徴で明らかにされている本であることを思い出してください。文脈自体から、ワシが

動物がしない何かを話すので、人々を表すシンボル。したがって、それは神からのメッセージを伝える召使を表します。イエスはワシを破壊と死の先駆者として言及し、「体（死体）があるところならどこでも、ワシはそこに集まります」（マタイ17:27）と述べました。したがって、ワシは、多くの人が破壊され、命が失われるであろう出来事を告げる召使を表しています。

第二、第三、第四のラッパが鳴る一連の災難の後、神の民はついに目覚め、大声で世界に宣べ伝えます（黙示録8:13）。イエスは昔、眠っている10人の処女のたとえ話によって、地上におけるご自分の民の状態を表されました。そのうちの5人はランプに予備の油さえ入れていましたが、世界にメッセージを伝えるという自分たちの義務に目覚めていませんでした。心を知っているイエスは、「彼らは皆、うとうと眠った」（マタイ25:5）と言われました。神の目には、神の僕たちは、世界に福音を告げ知らせる義務を果たすために目覚めているはずがありません。使徒たちの例、つまり彼らがどのように生き、説教したかを見れば、私たちはこのことを確信できます。この世の出来事や罪による一時的な喜びは、キリストの僕であると公言する人たちでさえ、依然として視界を曖昧にしています。

「しかし真夜中に、『花婿が来た！』という叫び声が聞こえました。」彼に会いに出かけましょう！それから...これらのおとめたちは立ち上がり、ともしびの火を整えた。」（マタイ 25:6,7）。神はついに教会を目覚めさせることができるでしょう。たとえ話の中では花婿はキリストです。「夫が来た！」という広告。イエスが差し迫って二度目に来られることを示しています。トランペットはキリストの再臨を告げます。その成就として、神はご自分の僕たちに花婿の到来を告げられます。この意味で、彼らは次のようなメッセージを伝えています。彼に会いに出かけましょう！そのとき、彼の僕たちである現代の乙女たちが目覚め、ワシのように地球を巡回しながら...空の真ん中を飛びながらこう言います。三人の天使がまだ吹いていないラッパが吹くからです。」（黙示録 8:13）そのとき全世界が警告されるでしょう。「私たちの救い主なる神は...すべての人が救われ、真理を知るよう望んでおられます。」（1テモテ2:3,4）

このメッセージは、7つのラッパの預言を研究した人々によって伝えられます。なぜなら、彼らだけがその預言が成就していることを知るようになるからです。そしてその時、多くの人が聖書と出来事を比較し、聖書の中でその成就を見るでしょう。これらすべては、まだ演奏されていない三人の天使の他のラッパの吹奏を告げる叫び声を増大させるでしょう（黙示録8:13）。

平和で平穏な時代に福音が「全世界に宣べ伝えられる」ことが神の望みだったが、教会が神の呼びかけに応えるのが遅れたことは、教会ができなかったことを、多大な困難と困難の中で果たさなければならないことを意味するだろう。平和な時にやれよ。そのとき、キリストによって信者たちが、ともし火に聖霊の油を持っていた賢明な乙女たちに誰と比較されるかがわかります。「聖霊...神はご自分に従う者たちに与えられました」（使徒言行録5:32）、黙示録では「神の戒めとイエスの信仰を守る者」だけが神の教会の会員に任命されます。（黙示録 14:12）。

それまでは、麦と毒麦、真の信者と偽の信者が教会の中で一緒に成長してきましたが、真の信者と偽の信者が区別される時が来ました。イエスがたとえ話の中で「あのおとめたちはみな立ち上がり、ともしびを整えた」（マタイ 25:7）と言われたように、誰もが目を覚ますでしょう。しかし、それまで神に従う代わりに、常に楽で人気のある側を追い求めていた人は、忠実な道を歩むことはありません。彼らは、最後のラッパが3つ吹かれたときに起こるであろう困難に勇敢に立ち向かうつもりはないでしょう。「そして愚かな者は賢い者に言った。

ランプが消えてしまうので、油を少しください。しかし賢い人たちは答えて、「私たちがあなたたちも失敗しないようにしましょう。」と言いました。むしろそれを売っている人のところに行って、自分で買ってください。」（マタ 25:8,9）。細部にわたって神への信仰と従順の生活を通して、真の僕たちは賢い乙女のように行動し、「神に従う者たちに」与えられる油、聖霊を毎日受けていました。彼らは神の戒めに従い、神が自分たちを救い出してくださいと信頼することを学びました。

彼らは主への信仰を深めました。これは個人の経験です。生涯の経験の結果として得たものを、一瞬にして他人に与えることはできません。

したがって、イエスはたとえ話を通して、土壇場でオリーブオイルを買うことはできないことを説明されました。愚かな処女たちの場合は絶望的です。「そして、彼らがそれを買いに行ったとき、花婿が来て、準備ができていた人々が花婿と一緒に結婚式に出席したので、ドアが閉まりました。すると他の処女たちもやって来て、「主よ、主よ、私たちのためにドアを開けてください！」と言いました。するとイエスは答えて言われた、「はっきり言っておきませんが、私はあなたのことを知りません。」

（マタ 25:10-12）。

4番目のラッパが鳴った後、私たちはどちらの側につくのでしょうか？その時地上に住む人々に三つの「災い」が宣告されます。彼らは、最後のラッパが3つ吹かれたときに、自らの運命を滅びに導く者たちに相当します。それらはあなたにも当てはまりますか？

そうでなければいいのですが！

最初の4つのトランペットの衝撃によって失った息を回復した後、信者は行動に目覚めるだけではありません。他の人々もまた、災難に直面するために対策を講じるでしょう。終わりが近づくにつれて、天国と地獄の力は最大の強度で作用します。あなたの闘いは？人々の魂のために。それでは何が起こるのでしょうか？第五のラッパの啓示を見てください。

第7章 – 第5のラッパ

危機に対する人類の対応と反キリストの啓示

- 災害の責任は神にはありません

歴史は、神を恐れない人々が常に神の性格と行動方法を理解できなかったことを示しています。アダムとイブが罪を犯して以来、人類は神の愛を認識する能力を失いました。聖書には、異教の船員たちがヨナとともにタルシシュへ向かう船に乗っていたところ、大きな嵐に遭遇したと記されています。彼らはこれが神が怒っているしるしであると理解しました。神々の怒りを鎮めるために子供たちを犠牲にすることに慣れていた彼らは、今度は誰に対して「神の怒り」が燃え上がったのかを知ろうとした。そして彼らはどのようにして神に祈りを求めたのでしょうか？いいえ：「そして、それぞれが仲間に言った、「来て、なぜこの災いが私たちに降りかかったのかを知るために、くじを引きましょう。」そこで彼らがくじを引いたところ、そのくじはヨナに当たった」（ヨハネ1:7）。「かつてあったものは、これからもそうなる……太陽の下に新しいものはない」（伝道者1:9）。今日、自称クリスチャンが次のように言うのをよく耳にします。「それは愛によってではなく、痛みによってもたらされます。」したがって、彼らは人間を苦しめるすべての災難を神の裁きとして解釈します。したがって、彼らは無意識のうちに、神は人間の不従順に怒っており、したがって人間を罰していると宣言します。

しかし、神は人間のように怒ることはありません。「人間の怒りは神の義を働かせないからです」(ヤコブ 1:20)。神は罪に不快感を抱いており、それは真実であり、「罪を犯した者が無実であるとは考えていない」(民14:18)ため、罪を無視しません。しかし、神の最大の喜びは、悔い改めた罪人を赦すことです。「神の栄光は物事を覆い隠すことである」(箴言25:2)。

ソドムとゴモラの滅びの場合のように、彼が時々直接罰を与える行動をすることがあるのは事実ですが、彼は罰することに非常に消極的であることをイエスを通して明らかにしました。イエスは姦淫の罪を犯したマグダラのマリアを次のように言って赦されました。「行って、もう罪を犯さないようにしなさい」(ヨハネ 8:11)。聖書は、破壊の行為は神にとって「奇妙な行為」であると述べています(イザヤ28:21)。生命の創造者であり与え者である神が破壊するのは不自然なことです。しかし、今日のクリスチャンは御言葉を知らずに、人間の不幸を神のせいにし、神の人格に汚点を与え、多くの非キリスト教徒が神を憎むまではいかないまでも、神を恐れるようにしています。サタンは、特にこの終わりの日に、この誤った概念を利用します。

最初の4つのラッパで説明されている災難を経験した後、人は神の怒りを和らげる必要があることを理解するでしょう。どうやって?彼女を挑発した罪を犯した者たちを捜索し、皆殺しにする。したがって、不従順を補うために神が喜ばれるような態度を取ることです。どの偽りの宗教も、良い行いによって神を喜ばせ、神の好意を得ることが可能であると教えています。聖書ははっきりと述べています。「私たちは、人は律法の行いとは別に信仰によって義とされると結論します」(ローマ 3:28)。しかし、人間の高慢な心にとって、自分の行いが神の好意を得るには不十分であることを受け入れ、自分自身を完全に信頼せず、神のみに信頼することは屈辱的なことです。このように、異教徒たちがしたように、神の怒りを和らげるために何かできると考えるほうが都合がよいのです。彼らは自分たちの神が怒っていることを理解すると、多額の供物を捧げることで自分たちの不従順を償えと考え、子供たちを犠牲にしたのです。人々は宗教に関して人間の導きを信頼するように教えられているので、今日も同じようにするでしょう。彼らは、黙示録の最初の4つのラッパで予言された災難によって世界が荒廃しているのを見て、神の怒りを鎮めるためにどのように行動すべきかガイドに相談します。そのとき、偽牧師たちの反応は次のとおりです。「この教会は神のものであり、神のものを教えています。神を喜ばせるためには、教会の教義に従わない者を犠牲にし、殺してください。」その後、中世のように、神の僕たちのためにかがり火と断頭台が上げられます。

教会は揺るがされるでしょう。偽りの信者は迫害を恐れてその隊伍を放棄し、多数派のうちより楽で人気のある側に加わるだろう。「その言葉のせいで苦しみや迫害が起こると、彼はすぐに腹を立てます」(マタイ13:21)。真の者だけがキリストの基準を持ち続けるのです。第五のラッパの音が鳴る時が来ると、信者たちは二つのグループに分かれます。

あなたと同じように預言を学んだ僕たちは、世界が神を誤解するだろうということを知っているでしょう。彼らはまた、次のステップは人間の教義ではなく神に従うことを好む人々の迫害であることも理解するでしょう。そして彼らは、この一步を踏み出すことによって、自分たちを救ってくれるメッセージを持っている人たちを邪悪な者たちが殺すことになることに気づくでしょう。この行為により、彼らは永遠の天罰を封印することになる。ユダヤ人の歴史は繰り返されるでしょう。彼らは、キリストを十字架につけ、ステパノを殺し、福音の説教者たちを迫害することによって、救いの使者たちを自分たちの中から追放し、自らに有罪判決をもたらしました。西暦70年に起きたエルサレムの恐ろしい破壊は、数千人のユダヤ人が十字架につけられ、他の多くのユダヤ人が剣の刃で命を落としましたが、これは彼らの行為に対する正当な報復でした。そしてその中で世界の運命が予言される。

「第五の天使がラッパを吹き鳴らすと、星が天から地に落ちるのが見えました。そして彼は底なし沼への鍵を与えられました。そして彼は底なしの穴を開けると、大きな炉から出る煙のように、煙が穴から立ち上りました。そして井戸の煙で太陽も空気も暗くなった。イナゴが煙の中から陸地に出てきました。そして、地のサソリが持つような力が彼らに与えられた。彼らは、その土地の草も、緑も、木も傷つけてはいけなく、ただし、額に神の印を押していない人だけを傷つけてはいけなく、と言われました。彼らは彼らを殺すことは許されませんでした。5ヶ月間彼らを苦しめることが許されました。そして彼の苦しみは、サソリが人を襲ったときの苦しみに似ていました。その時代、人々は死を求めますが、それは見つかりません。そうすれば彼らは死にたいと思うだろう、そして死は彼らから逃げるだろう。」（黙示録 9:1-6）。

聖書の象徴では、「星は天使です」（黙示録 1:20）。ヨハネは、天から落ちた星が地上に落ちたのを見ました。それは墮天使、サタンを表しています。そして彼は底なしの穴への鍵を与えられました(黙示録9:1)。そうしていると、ヨハネは「大きな炉から出る煙のように、煙が井戸から立ち上っている」ことに気づきました（V. 2）。これは神の臨在の現れのしるしでした。そして彼らは山の麓に立った。そしてシナイ山全体が煙を上げていた。主が火の中でその山に降臨されたからである。そしてその煙はオープンから出る煙のように立ち上った。」

19:17,18)。サタンによって開けられた深淵から煙が立ち上っているのを見たとき、ヨハネは、敵が神の代表者であると主張する者の出現を促進するだろうと理解できました。それは神の現れの偽物を作ることになるでしょう。パウロも次のようにコメントしています。

「さて、私たちの主イエス・キリストの来臨と、私たちが主のもとに集まることについて、兄弟たち、あたかも主の日が近づいているかのように、自分たちの考え方から安易に動かされないようお願いします。いかなる形であっても、誰もあなたを騙さないでください。なぜなら、まず背教が起こり、罪の人、つまり滅びの子、神と呼ぶもの、あるいは崇拜の対象であるものすべてに反対し自分を高め、神の聖所に座る者が明らかにされない限り、このようなことは起こらないからである。、自分自身を神であると称しています。」（IIテサロニケ 2:1-4）。滅びの子は神の代わりに自分を置くでしょう。彼は反キリストです。黙示録では、彼は滅びに向かっていて獣であると特定されています。「その獣は……深淵から上がろうとしており、滅びは遠ざかります」（黙示録 17:8）。

反キリスト= 滅びの子 (II Ts. 2:3)

獣= 滅びに行く (黙示録 17:8,11)

反キリスト=滅びに向かう獣

黙示録は獣であることを明確に示しているため、誰も騙される必要はありません。

「それから私は、10本の角と7つの頭を持つ獣が海から上がってくるのを見ました...そしてドラゴンは彼に彼の力と王座と偉大な権威を与えました...そして彼らはその獣を崇拜しました。」（アプリ。13:1,2,4）。彼女が崇拜されるとすれば、それは宗教指導者以外にあり得ません。彼女については、「彼は傲慢と冒涇を語る口を与えられた」とも言われています。（黙示録 13:5）。彼は冒涇を話す傲慢な宗教指導者です。聖書では、これは自分を人の立場に置くことを意味します。

神：「私たちがあなたに石を投げるのは、何か良い行いのためではなく、冒涇のためです。あなたは人間であるから、自分を神としているのです」（ヨハネ10:33）。宗教指導者以上のもの

他の皆さんも、この言葉を実現してください。彼は神であり、自分自身を神であると示し、聖書の言葉を実現していると指摘されています。

「私たちの主なる神、教皇には布告する権限がないと信じることは…異端です。」出典:教皇ヨハネ二十二世の贅沢の光沢、クム。インテル、タイトル 14、第 4 章、「Ad Callem Sexti Decretalium」、コラム 140、パリ、1685 年。

教皇のティアラには「Vicarius Filii Dei」というタイトルが記されており、これは神の子の代理または代理を意味します。それは彼を地上における神の代表者として示しています。この象徴は、シナイ山における主エホバの出現と同様に、この教皇の出現が本質的に超自然的であることを示していることに注意してください。そこではサタンが次のように説明されています。そして、彼は底なしの穴を開けた、そして、大きな炉から出る煙のように、煙が穴から立ち上った。」（黙示録9:2）。聖書の象徴において、深淵は死の場所も表します。それは、キリストを死人の中からよみがえらせることです」（ロマ 10:7）。サタンが底なしの穴への鍵を受け取るという事実は、サタンが人々を死者の中から復活したものと世界に示す許可を受けることを表しています。実際に人を生き返らせる力はないが、死んだ人の姿を人々の目の前に出現させることはできる。聖書は、死者は何も知らないと言明しています。なぜなら彼の記憶は忘却の彼方に追いやられていたからだ。あなたの愛も憎しみも羨望もすでに消え去った。また、彼らは今後、太陽の下で行われるあらゆることに永遠に参加することはありません」（伝道 9:5、6）。そして、彼らはイエスの再臨まで生き返ることはありません。義なる死者たちは再臨のときに復活します。「大声で、天使長の声で、神のラツパの音とともに、主ご自身が天から降り、キリストにあって死んだ者たちが最初によみがえります。」そして悪人については、キリストの再臨の時の幻を見たヨハネはこう言いました。「しかし、残りの死者たちは、千年が終わるまで再び生き返ることはなかった。」（1テサロニケ4:16;同4:16).20:5)。したがって、現時点では神による死者の復活は期待できません。

聖書は死者と話す習慣を禁じています。これらのことを行う者は皆、主にとって忌まわしいものであり、あなたの神、主が彼らをあなたの前から追い出されるのは、これらの忌まわしい行為のせいである。」

18:10-12)。死者は地下で行われていることに何の関与もしていないため、死者に相談する人は誰でも、聖書に反して、偽物、つまり死者の姿を作り出す者たちと直接接触することになります。これらはサタンとその悪霊たちです。このような実践によって、主はカナンから邪悪な国民を追い出されました。心霊術と呼ばれる死者に相談する習慣は、古代と同じかそれ以上に今日でも続いています。したがって、心霊術センターに現れるいわゆる「おなじみの霊」は、亡くなった家族の姿をとって模倣し、多くの人を欺く悪魔です。5番目のトランペット

この論文は、サタンが終末の時に、彼の主な欺瞞であるスピリチュアリズムを通じて、復活した教皇を世界に提示するであろうことを明らかにしている。これは、テサロニケ人への手紙の言葉を文字通り成就しています。「この不法な者の到来は、あらゆる力とするしと偽りの不思議を用いて、そしてあらゆる不正の欺瞞を伴うサタンの働きによるものであり、滅びる者たちには、彼らがそうしなかったからである」救われるためには真理の愛を受けなさい」（11テサロニケ2:9,10）。私たちは、彼が悪魔を、彼らが書いたことと矛盾するキリストの亡くなった使徒の形で提示すると信じています。パウロが昔から私たちに次のように警告したのはこのためでしょう。

忌まわしい。以前にも話したように、もう一度言います。もし誰かが、あなたが受け取った福音以外の福音をあなたに宣べ伝えるなら、その人は呪われてください。」（ガラテヤ 1:8,9）

上の本文で示された男性が騙される理由は、第5のラッパが鳴った時点の世界のシナリオと一致します。この章の冒頭で、人間が神について間違った概念を持っていることを見ました。彼らは彼を通して、地上に裁きが降りかからないようにするために神の怒りを和らげる必要があることを理解するでしょう。しかし、彼らは真理を知り、それに調和するために聖書を求める代わりに、人気のある教会の宗教指導者に頼り、彼らの教義を受け入れるでしょう。この慣行は今日ではすでに一般的です。一般の会員にとっては、「主はこう言われる」神の言葉ではなく、「教会はこう言われる」牧師、司教、教皇の言葉が有効です。テサロニケ人への手紙にあるように、ほとんどの教会員は真理の愛を受けていません。「あなたの言葉は真実です」とイエスは言いました（ヨハネ17:17）。しかし、大衆の意見では、教会の教義と両親の伝統は正当であり、神の意志を損なうものです。"そして

それが、神が彼らに誤謬の作戦を送り、彼らが嘘を信じさせる理由である。それは、真理を信じず、不義を楽しんだ者がすべて裁かれるためである。」

（IIテサロニケ2:11,12）。真理を執拗に拒否し、人間の格言にしがみついた後、神はついに人間を自ら選んだ指導者のなすがままにしておくこととなります。したがって、本文にあるように、公然と反キリストの側に自分たちを位置づけることによって、彼らは自分たちがどちらの側にいるのかを宇宙に証明し、彼らの行いによって判断されることになるのです。ラッパの吹く時は天国での裁きの時であり、人間にとって最後の機会である。神は彼らの心の中にあることをご存じですが、創造主が彼らに対処する際に神の裁きにおいて正当化されるためには、彼らがそれを行いによって実証する必要があります。神は、神の政府に反逆し、神の言葉の愛を受けていない人々を安全に天国に連れて行くことはできず、そうすることは罪を永続させ、宇宙の政府全体の安全を危険にさらすこととなります。したがって、彼は彼らの選択の欲求を尊重し、彼らが選んだリーダーの指揮下に置かざるを得ません。聖書の真理を受け入れず、彼らは自分たちを偽りの父であるサタンと同列に位置づけ、サタンの欺瞞から身を守ることができなくなりました。そして、神の宿敵が大いなる欺瞞を提示するとき、彼らは羊のように彼によって屠殺場に導かれるであろう。

しかし、今日では多くの人がある宗教を重視していないのに、世界の大多数の人がその宗教に従うようになるという事は一体どのようにして起こるのでしょうか？第4のラッパ後の世界のシナリオを簡単に振り返ってみると、このことが理解できるでしょう。黙示録の最初のラッパの成就として起こる災難を思い出しましょう。

第1ラッパ :流星群

2番目のラッパ:小惑星の海への衝突

3番目のラッパ :地球への彗星の衝突

第4のラッパ:太陽、月、星の光が地球の3分の1に影を落とします。

これらの出来事は地球のインフラを破壊し、これまでに見たことのない災害と混乱の状態を生み出すでしょう。この危機を克服するために、人類は2つの関連する運動を起こすでしょう。1つは政治的な運動で、もう1つは宗教的な運動です。政治的分野では、世界は地球政府を再編し、地球を再建する計画を策定するために緊急の措置を講じるでしょう。私たちは、そのときが新世界秩序、この新たな秩序の到来であると信じています。

ここ数年発表されてきた政府機構は完全に統合されることになる。その中で、世界は10人の王がいる10の王国に分かれます。黙示録では、その象徴の啓示に見られるように、それが預言されています。「そして、あなたが見た10本の角は10人の王であり、彼らはまだ王国を受け取っていませんが、獣とともに一時間王としての力を受けるでしょう」 (黙示録 17:3,7,12)。

この預言の成就に向けた動きが、1970年代以降より明確に見られるようになりました。

「ローマクラブは、地域への分割と全世界の統合を監督する任務を託された」 ...

クラブの結論と推奨事項は、特別かつ機密性の高い報告書として随時公表され、権力エリートに送られて実行されます。1973年9月17日、クラブは、世界政府システムの地域によって適応されたモデルと題された報告書の1つを送信しました。

この文書は、同クラブが世界を「王国」と呼ぶ10の政治・経済地域に分けていたことを明らかにしている。出典: Rumbo a La Ocupación Mundial、ページ。60,61 (強調と強調を追加)は、「O Oitavo、第2章」に掲載されました。7 - 編集者 4 アンジヨス。



図 - ローマクラブによる世界の10王国への分割 (1973年)

フォンテ : 著書「世界占領へ向かう」

そして近年、世界の最高当局からこの新政府の樹立を求める声ははっきりと見られます。

2009年:

- 新秩序の誕生



BBC ブラジル - 2009/03/30

嵐の後には平穏を望みます... 火災により国際金融システムがほぼ破壊された後、2007年に始まった危機の中で、建築家たちはすでに新しい構造物の建設に取り組んでいます...

「世界の主要20カ国の首脳は今週ロンドンで会合し、第二次世界大戦後に誕生した秩序に代わる新たな世界経済・政治秩序の創設を開始するという使命を担っている。」出典: BBC Brasil (強調追加)。

新世界秩序の出現に関する大々的な宣伝と発表にもかかわらず、この預言は、それがまだ最終目的を達成していないことを私たちに理解させます。彼女によると、世界は10人の王によって統治される10の偉大な君主国に分割されるでしょう。これは新世界秩序の最終的な政治的形態となるだろう。「そして、あなたが見た十本の角は十人の王であり、彼らはまだ王国を受けていないが、獣とともに一時間だけ王としての権力を受けられるでしょう。」(黙示録17:12)。この段階に達すると、世界の政府は野獣、つまり反キリストの手に渡されるでしょう。

「そして、あなたが見た十本の角は十人の王です。...これらは同じ意図を持っており、自分たちの力と権威を獣に引き渡します。」(黙示録17:13)。

最初の4つのラッパの災難は、新世界秩序と呼ばれる世界政府の再編プロセスを加速させる可能性があります。

さらに、2009年に行われたこの新秩序の創設の発表は、この本で研究された預言の成就を見る時が来たことを示しています。終わりは目前です！

預言によれば、世界の政府は教皇の手に渡され、「彼らは自らの権力と権威を獣に引き渡す」(黙示録17:13)。また聖書を確認すると、教皇はすでに新世界秩序が一人の人物(彼)によって統治されることを示唆している。

「ラクイラでのG8会議の24時間強前、昨日ベネディクト16世は教皇庁の記者室に現れ、教皇庁の3回目の回勅を公に発表した。Caritas in Veritate、または「真実の慈善」は、経済危機の社会的および道徳的影響に取り組んでいます...

6章141ページの緻密かつ複雑な内容で、教皇は「道」を擁護する。

これは、グローバリゼーションを組織する極めて新しい方法であり、法律によって制限され、普遍的に認められる「真の世界的な政治的権威」の形成を伴う必要がある。目的は「世界経済を統治する」。

典: <http://www.ionline.pt/conteudo/12233-os-ingredientes-bento-xvi-uma-nova-global-order> - 2010年6月22日にアクセス (強調は追加)。

最初の4つのラッパの後に確実に起こるであろう政治的変革とは別に、現時点で人類の救いに関して最も興味深いのは、宗教的価値観の分野で起こるであろう変化です。

人間は苦しいとき、神を求める傾向があります。9月11日のツインタワー攻撃後の最初の6週間で、米国の教会の礼拝への出席者は300%増加、つまり3倍になった。そして、さらに大規模で悲惨な一連の災難が全世界を襲うとき、その絶望の中でほとんどすべての人が一夜にして宗教的になるでしょう。教会は満員になるでしょう。サタンは反キリストや他の偽預言者や使徒を通してこの機会を利用し、神の戒めに反対するよう世界を導くでしょう。

「第五の天使がラッパを吹き鳴らすと、星が天から地に落ちるのが見えました。そして彼は底なし沼への鍵を与えられました。そして彼は底なしの穴を開いた」 (黙示録9:1,2)。

私たちが見たように、その星、墮天使はサタンです。彼は底なしの穴を開く許可を得るでしょう。黙示録は、獣である反キリストが深淵からよみがえろうとしていると宣言しています (黙示録 17:8)。ここで、啓示が積み重なるようです。底なし沼が開いた瞬間から、底なし沼から這い上がろうとする者が現れることがある。教皇たちは死と地獄への鍵を握っていると主張する。ですから、地球を混乱に陥れるために「墓からよみがえって死を克服する力を実証した」男の出現は、世界の目には何と都合で時宜にかなったものに見えることでしょう。サタンが提案した危機の解決策は神の摂理として熱心に受け入れられるだろう。世界はこの欺瞞に飲み込まれるだろう。実際、黙示録にはこう予告されています。「そして全地が驚嘆し、獣に従いました…そして地に住む者は皆、屠られた小羊の書にその名が記されていない彼を崇拜するでしょう。」黙示録 13:3,8)。

「偽キリストと偽預言者たちが立ち上がり、できれば選民さえも欺くほどの大きなしるしや奇跡を示すだろう」というイエスの言葉が成就するでしょう。

(マタ 24:24 - 改訂および修正されたアメリカ訳)。新世界秩序の政府を予見して、黙示録は、地球の指導者たちが教皇に権威を与えるだろうと積極的に宣言しています。獣と一緒に一時間。

これらは同じ意図を持っており、自分たちの力と権威を獣に引き渡すでしょう」 (黙示録17:12,13)。

(注: 黙示録 17 章の預言は、どの教皇が世界を欺くために悪魔に擬人化されるのかを明確に明らかにしています。この啓示は、Editora Advertência Final 発行の『最後の教皇』という本で紹介されています)。

サタンは自分の代理人を通して、戒めが守られなかったために最初の4つのラッパの災難が世界に降り注いだのだと人々に説得するでしょう。シナイで神が与えたものではなく、神によって制定されたものです。

教皇制、神の法律を変えること。以下の表を参照してください - カトリック教理問答、バチカン版の忠実なコピーです。

神の法則:

男性の法則:

十戒		
出エジプト記 20.2-17 申命記 5.6-21 要理の公式		
わたしはあなたの神、主、あなたをこの地から導き出した者の地からあなたを導き出したあなたの神、主である。 エジプト、束縛の家から。	エジプトから、奴隷の家から。	
あなたには他の神はいないでしょう、	あなたには何よりも私の前に愛の神以外に神はいないでしょう。 私の...	神はいないでしょう。 もの。
そこにあるものに似たものを自分で彫ってはなりません 上の天の中、下の地の中、あるいは地下の水の中。あなたはこれらの神々にひれ伏したり、仕えたりしてはならない。あなたの神、主であるわたしは嫉妬深い神であり、父親の咎を子供たち、そしてわたしを憎む者の三代、四代に至るまで罰する。 そして、私を愛し、私の戒めを守る人々に、千代の慈悲を与えます。		
無駄に言うてはいけない、無駄に言うてはいけない、あなたの神、主の御名を唱えてはならない... 主がそうさせないから 自分の言葉を無駄に発した者は罰せられない 名前。	無駄に言うてはいけない、あなたの神、主の聖なる御名、あなた 無駄に名前を付ける。	
安息日を思い出してください なりません。	あなたは日曜日を守り、それを聖化するために安息日を守らなければ それを神聖化して...	護衛パーティー。

出典: カトリック教会のカテキズム、バチカン典型版、p. 539 (強調を追加)。

土曜日を休息の日とする聖書の教えとは対照的に、教皇は日曜日を義務の日として守るよう教えている。「そして滅びに至る」(黙示録17:11)。

反キリストとその教えに従う者は皆失われるでしょう。しかし、安息日を良心的に守る人々に誤りがあることを世界は理解するでしょう。に従います

教皇は聖書の真理に対する愛を持っていなかったからだ。「聖書を調べなさい。聖書の中であなたは永遠の命があると思うかもしれませんが」とイエスは言いました（ヨハネ5:39）。人間の教えに任せる者は、誤謬の働きに夢中になるだろう。当時地球の救世主とみなされていた教皇の教えを受け入れない人々に対しては大きな憤りがあるでしょう。その場合、世界は2つのクラスに分けられます。

1 - 獣の崇拜者 - 圧倒的多数となる

2 - 神の戒めを守る人々 (黙示録 14:12)。

人間の永遠の破滅を避けようとして、神は第五のラッパの直前に次のような警告を送るだろう。地球！まだ吹いていない三人の天使の他のラッパの吹奏のためである」（黙示録 8:13）。聖書の他のバージョンに登場するこのワシ、または天使の後には、最後の3つのラッパの吹き鳴らと同時に与えられるメッセージをもたらす3人の天使が続きます。これらは天が罪人たちに送った最後の招待状を表しています。

「そして私は、別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見た。そして彼は、地上に住む者たち、すべての国民、同族、言語の人々、そして人々に永遠の福音を告げ知らせ、大声でこう言った、「恐れよ」。神よ、彼に栄光を与えてください。神の裁きの時が来たからである。そして天と地と海と水の泉を造られた方を崇拜しなさい。

第二の天使が彼に続いて言った、「大いなるバビロンは倒れた、倒れた、それはすべての人にとって国々は彼女の淫行の怒りのぶどう酒を飲むことになる。

そして、第三の天使が彼らに続いて、大声で言いました、「もし誰かがその獣とその像を崇拜し、額や手にその刻印を受けたなら、その人も用意されている神の怒りのワインを飲むでしょう」混じりけのない、神の怒りの杯の中で。そして彼は聖なる天使たちの前と小羊の前で火と硫黄で苦しめられるだろう。彼の苦しみの煙は永遠に永遠に続く。そして、獣とその像を崇拜する者には昼も夜も休むことがなく、またその名のしるしを受け取る者も同様である。ここに聖徒たちの忍耐、神の戒めとイエスの信仰を守る者の忍耐がある。」（黙示録 14:6-12）。これら3つのメッセージの説教の説明の後、ヨハネが見た次の場面は、天の雲の中でのキリストの再臨でした。人間の場合、頭には金の冠をかぶせられ、手には鋭い鎌があった。」

14:14) 。したがって、私たちは、三人の天使のメッセージが、地上に住む人々に送られる最後のメッセージであると理解しています。このことは、獣や地上の王たちが聖徒たちを迫害するときに、最大限の力をもって宣べ伝えられるでしょう。御霊の力に満たされた彼らは、最後のメッセージを高らかに宣言します。これらの重要なメッセージについては後の章で詳しく説明します。

- 道徳的な闇とイナゴの襲撃の真っ只中の明るさ

「第五の天使がラッパを吹き鳴らすと、星が天から地に落ちるのが見えました。そして彼は底なし沼への鍵を与えられました。そして彼は底なしの穴を開けると、大きな炉から出る煙のように、煙が穴から立ち上りました。そして井戸の煙で太陽も空気も暗くなった。イナゴが煙の中から陸地に出てきました。そして彼らに力が与えられたのです。

サソリが持っている土地。彼らは、その土地の草も、緑も、木も傷つけてはいけなく、ただし、額に神の印を押していない人だけを傷つけてはいけなく、と言われました。彼らは彼らを殺すことは許されませんでした。5ヶ月間彼らを苦しめることが許されました。そして彼の苦しみは、サソリが人を襲ったときの苦しみに似ていました。その時代、人々は死を求めますが、それは見つかりません。そして彼らは死にたいと願うだろう、そして死は彼らから逃げるだろう。」（黙示録 9:1-6）。

深淵という言葉は、悪魔がたくさんいる場所も表します。ガダラから来たこの男に取り憑いた天使たちは、「彼らを深淵に送らないようにイエスに懇願しました」（ルカ8:31）。黙示録の預言者は、深淵が開かれると、たくさんのイナゴが出てくるのを見ました。しかし、彼らには昆虫のような行動はありませんでした。「彼らは、地球の草、どんな野菜、どんな木にも害を与えてはいけなく、人間にだけ害を与えてはいけなくと教えられました。」彼らは男性を苦しめた。後にヨハネは、彼らには「彼らの上に王、つまり深淵の天使がいました。彼の名前はヘブライ語ではアバドン、ギリシャ語ではアポリオンでした」（黙示録9:11）。ヘブライ語とギリシャ語の2つの用語は「破壊者」を意味します。深淵の破壊の天使はサタンです。イナゴたちは彼を王としました。そのとき彼らは誰だったのでしょうか？シンボルの他の意味の中でも、バッタは「悪魔」を表します。彼らはサタンを王として持っています。ヨハネは、深淵が開かれ、彼らが大勢で出てきて人々を苦しめる仕事をする瞬間を見た。ルカは悪霊に取り憑かれた人々について、「彼らは汚れた霊に苦しめられていた」（ルカ6:18）と述べています。苦しめるということは「憑依する」ということです。この間、前例のない数の所有物が目撃されるでしょう。聖書の記述によれば、悪霊による苦痛はサソリの苦痛に似ています。医学的に観察される人が刺された場合の症状は、ほぼ100%苦痛を伴う激しい痛みです。

「焼けつくような、刺すような、あるいはズキズキする痛みは、触診すると激しさを増し、患部の付け根まで広がることもあります。」出典: CUPO P;アゼベド・マルケス MM & ヘリング SE.有毒動物による事故 :サソリやクモ。メディシナ、リベイラン プレト、36: 490-497、4月/12月2003年。

悪魔は犠牲者にこの不快感を与えます。黙示録はまた、人々は苦しみや苦しみの中で死にたいとは思っているものの、悪霊の行為の犠牲者として死ぬことはないと報告している。そして彼らは死にたいと願うようになり、死は彼らから逃げるでしょう。聖書の記述と一致して、医学ではサソリに刺されても致死性は低いと述べられています。たとえば、上で引用した同じ情報源には次のように言及されています。

「1982年から2000年までに、リベイラン プレト毒物管理センターには9,228人の患者が登録されました。このセンターは、HC-FMRP - USP 緊急ユニットと並行して運営されており、サソリに噛まれた患者の被害者です。」（強調を追加）。これらすべてのうち、死亡が観察されたのはわずか7人であり、1,000件に1人未満でした。

この預言は、「彼らには許された」（黙示録 9:8）という興味深い言葉を示しています。なぜイエスは悪霊が人間に対して力を持つことを許したのでしょうか。なぜ以前ではなく、その時にこのようなことが起こるのでしょうか？これは、救いの壮大な計画をよりよく理解することによって理解できます。

イエスが私たちの間に住むためにこの地上に来られたとき、暗闇の王国が動き出しました。ほぼ4000年にわたり、サタンは「この世の君主」として支配し、キリストの最も忠実な追従者たちさえ打ち負かしてきました。エリヤやモーセでさえ、

彼らは人生の特定の瞬間に、誘惑者の策略の犠牲になりました。モーセは人生の終わりに、神が求めたように岩に「水を持ってくるように」と言う代わりに、岩を叩くという誘惑に負けました。彼は敵の挑発とイスラエル暴徒の怒りに屈した。エリヤはカルメルで得た大勝利の後、信仰によってバアルの四百五十人の預言者の前に一人で留まり、弱ってしまいました。イゼベル女王が彼を殺すと誓ったと聞いたとき、彼は命の危険を感じて砂漠に逃げ込みました。しかし、神への従順と服従によってサタンを克服した真理の擁護者イエスがいました。彼は砂漠で三度、そして残りの人生で数え切れないほど誘惑しましたが、次々と撃退されてしまいました。

私たちと同じ人間であるイエスは、信仰と祈りによって粘り強く働き、宣教の終わりにこう言うことができました。「この世の君主が来ましたが、わたしのうちには何も持っていません」（ヨハネ14:30）。

福音書によれば、サタンは生涯を通してイエスを誘惑しましたが、イエスの努力が最も強まったのは、イエスの宣教期間の3年半の間でした。イエスは子供や若者として「知恵と身長が増し、神と人に好意を抱きました」（ルカ 2:52）。神の肉体的および知的能力のすべてが完全に発達していない間、サタンは神の発達の程度に応じてのみ神を誘惑することができました。たとえば、3歳の子供を姦淫に誘うのは意味がありません。しかし、イエスがバプテスマを受けるためにバプテスマのヨハネの前に出たとき、彼は成長した男性であり、その能力が最大限に発揮されていました。彼は水から上がったとき、聖霊のバプテスマを受けました。そして、「イエスは悪魔の誘惑を受けるために、御霊に導かれて荒野に行かれました」（マタイ4:1）。この際、敵は際限なくあなたを誘惑しようと近づきます。彼は全力を尽くして彼に対抗することができましたが、敗北してしまいました。これにより彼は怒りに満たされ、王国を確立するための必死の努力の中で、これまで以上に頻繁に人々に取り憑くように悪魔に命令しました。私はキリストを倒すことはできませんでしたが、キリストの心を傷つけ、キリストの支配への扉を開いた哀れな魂たちに苦しみを与えたかったです。旧約聖書全体を見ても、イエスの3年間の宣教期間中に起こった悪霊の憑依に匹敵する数はありません。カナン人の女性の娘（マタ 15:21）、若い狂人（マタ 17:15-18）、ガラダレの悪霊（ルカ 8:26-30）は、救い主によって解放された多くの悪霊の一部でした。

イエスが天に昇られて以来、世界は、敵とその邪悪な天使たちが何倍もの所有物を持って現れるこのような現象を再び目撃することはありませんでした。このようにして、私たちは、キリストに勝つことの不可能性に直面して、敵とその悪霊が自制心を失い、絶望的な手段に訴えたため、何が起こったのかを理解します。しかし、黙示録は、終わりの時にはキリストのご性質が教会の中で再現されることを明らかにしています。「そして、見てみますと、見よ、小羊は……そして、小羊が行くところどこへでも従うのは、彼とともに十四万四千人です。

...

この人たちは人間の中から買い取られた者たちであり、神の御座の前では非のうちどころがありません」（黙示録 14:1,4）。注:イエスのように、罪のない人です。「かつてあったものは、これからもそうなるのです」（伝道者 1:9）。教会がその会員の性格と働きにおいてキリストを再現するとき、キリストに対するサタンとその天使の行為も教会に対して再現されることとなります。そのとき、イエスの時代以来見たことのない量の財産が存在することが予想されます。

キリストとサタンの両軍は最大限の力で行動する。一方では、敵は上記の働きを実行しようと努めますが、他方では、神の聖徒たちは誘惑者の攻撃に抵抗します。神の御霊に満たされた彼らは、イエスの業を行い、哀れな犠牲者たちから苦しむ悪霊を追い出し、

それらによって引き起こされる痛みや苦しみを軽減します。イエスの宣教は彼の教会によって地上に再現されるでしょう。「わたしを信じる者は、わたしと同じ業を行い、またそれ以上の業を行うであろう。わたしは父のもとに行くからである。」（ヨハネ14:12）という彼の言葉が成就します。しかし、聖書は、行われた奇跡は神の力の発現の確実な証拠にはならないと私たちに信じさせます。サタンも自分の代理人を通して治療を行います。「偽キリストと偽預言者たちが立ち上がり、大いなるしるしや不思議な業を行い、できれば選民さえも欺くだろう」（マタイ24:24）。聖書を通してのみ、私たちは偽りを真実から区別することができます。このことは、第五のラッパで言及されている神の保護のしるしが何であるかを考えると明らかになります。

- 保護のサイン

5番目のラッパは、悪魔が神の印章を持っているので、神の聖人たちに対して何の力も及ばないことを示しています。彼らの額には神の刻印がありません。聖書の他のバージョンでは、「封印」という言葉の代わりに「印」が使われています。

「そして彼らは、その地の草も、どんな緑のものも、どんな木も傷つけてはいけなく、ただし、額に神のしるしがない人にだけ傷つけてはいけなく、と言われたのです。」（アブリ。9:4 - 改訂および修正されたアメリカ版）。

聖書は安息日を神とその民との間のしるしとして示しています。「わたしはまた、彼らに安息日を与えました。それは、彼らがわたしと彼らの間のしるしとなるためであり、わたしが彼らを聖化する主であることを彼らが知るためです。」（エゼ。20 :12）。現時点で悪霊の力から守られる人々は安息日を守る人々です。神は彼らを特別な方法で守ってください。それは、イスラエル人がエジプトで最後に過ごしたあの忘れられない夜のようなことが起こるでしょう。神は、破壊の天使が人間から動物に至るまで、すべての初子に危害を加えると発表しました。したがって、彼は、屠られた小羊の血を門柱に渡すという保護のしるしを制定しました。その看板を見ると、天使は家の前を通り過ぎて、中には入らないでしょう。そうでなければ、つまり、兆候がなかった場合、長子は死ぬでしょう。その結果、「過ぎ去る」という意味の準備式典を指す「イースター」のお祝いが始まりました。同様に、デーモン・デストロイヤーは、安息日を守る聖徒たちに肉体を憑依することを許されないため、「通り過ぎる」ことを余儀なくされるだろう。これまでのように、破壊天使と交渉することは不可能です。サインを持っていなかったという言い訳は、その日に違反者を解放することはできません。

服従が保護の唯一の保証です。

これまで見てきたように、「封印」または「しるし」という言葉は第四戒の安息日と密接に関係していますが、さらに広い意味を持っています。聖書は、誰かが戒めを守るためには、すべての戒めを守らなければならない、そうでなければ、どれも守っていないとみなされると宣言しています。「律法全体を守りながら、一点でつまずく者はすべての罪を犯したことになるからです。「姦淫してはならない」と言う者は、「人を殺してはならない」とも言ったのである。」（ヤコブ 2:10）。したがって、安息日を守る人は実際に神のすべての戒めを守るようになることがわかります。

彼らはキリストの力によって、律法を要約する原則、すなわち神と隣人への愛を実践する人々となるでしょう。聖書は別の箇所でもこのことを確認しています。

この印章を持って神の土台が立っています。主はご自身のことを知っており、主の名を唱える者は誰でも不正から離れなさい。」（IIテモテ2:19）。

今日、神の戒め、特に安息日を守らない人の多くは、自分は悪霊の力から自由であると主張し、悪霊を追い出す特別な力を神から受け取っていると主張しています。しかし、黙示録は、戒めを守る者だけがこの特権を有すると宣言しています。今日自分たちをエクソシストと呼ぶ人々の多くは実際には神の僕ではなく、使徒行伝の時代の魔術師エリマ（使徒行伝13:8）のように人々を欺いています。主に仕える人と仕えない人の違いはすぐに明らかになるでしょう。5番目のラッパの時に、行われた奇跡によってではなく、安息日の戒めへの従順によって、各人がどちらの側にあるかを判断することが可能になります。このとき、力ある聖徒たちの説教を通して、誰もが第四戒の重要性について良心を明確にされ、エホバに対するあからさまな反逆を通してのみ、エホバに従うことを拒否できるようになるでしょう。したがって、この問題に対するあなたの立場があなたの運命を決定します。これまで見てきたように、彼の最終決断は恐ろしい宗教紛争の真ただ中で下されることとなります。神の忠実な人々は、新しい世界の法と秩序の敵に分類されるでしょう。彼らは法廷で無実の罪を着せられ、不当な扱いを受けて殉教するだろう。彼らは社会から追放され、売買もできなくなります（黙示録13:16,17）。イエスは弟子たちのために祈りながら、「わたしが世のものではないのと同じように、彼らも世のものではないので、世は彼らを憎んだのです」（ヨハネ17:14）と言われました。その時には、この言葉はなんと真実になるでしょう！しかし、神はご自分の民を忘れられません。出来事に翻弄されるままにしておけば、彼はすぐに潰されてしまうだろう。しかし、神は、第三の天使のメッセージを宣べ伝える業が妨げられないように、悪人の注意をそらすために別の困難を許してください。このようにして、次の聖書の言葉が成就します。しかし選ばれた者たちのためにその日は短縮されるであろう」（マタイ24:22）。邪悪な者たちは別の問題に注意をそらすので、迫害は軽減されるでしょう。これは第5のラッパのシンボルに関連しており、以下で扱います。

- 戦争シナリオ

聖書には、複数の意味を持つシンボルがいくつかあります。例として「ドラゴン」を挙げます。第一に、彼はサタンを表しています。「そして、竜は追い出されました。悪魔ともサタンとも呼ばれていたあの年老いた蛇です」（黙示録12:9）。しかし、それはまた、彼がイエスの命に反抗しようとするために利用した異教のローマ王国を象徴しています。そして彼女は男の子を産みました...そして女性は荒野に逃げました。」

12:4-6)。この場合の女性はマリアであり、息子はイエス・キリストです。この言葉は、ベツレヘムでのイエスの誕生を聞いた異教ローマのヘロデ王が、2歳以下の男の子を全員殺したときに成就しました。その後、天使がヨセフに遣わされ、少年の命を救うために逃げるように命じられました。彼はマリアとイエスとともにエジプトの砂漠の地へ行きました。聖書では他の多くのシンボルが複数の意味を持っています。その中にはバツタもいます。一方では彼らは悪魔を表していますが、他方では破壊的な行動を実行する軍隊を表しています。預言者ヨエルは、この象徴について次のような意味で言及しています。「そして、私は、あなたたちに対して送った私の大軍、イナゴ、カンカーワーム、ノミ、オルガによって消費された年月をあなたたちに取り戻します。」（ヨエル2:25）。特別な方法で、東部部族の軍隊は士師記の次のシンボルによって識別されました。

イスラエルが種を蒔いたとき、たまたまミディアン人とアマレク人が現れました。そして東から来た者たちも彼に向かってやって来た。そして彼らは野原で彼らに敵対し、新しかった土地を破壊し、ついにガザに来て、羊も牛もロバも、イスラエルに食べ物を残さなかった。彼らは牛と天幕を持って登ったからである。彼らはイナゴのように、彼らも彼らのラクダも数えることができないほどの数でやって来ました。そして彼らはそれを滅ぼすためにその地に入った」（士師記6:3-5）。「東から来た」人々は、アブラハムの長男イシュマエルの子孫であると主張する、いわゆる「アラビア部族」、今日のアラブ人でした。

第5のラツパは、神の封印を持たない者に対するイナゴの攻撃的な行動を示しています。過去に、アラブ人によってこの預言が部分的に成就されたことがありました。中世、神の聖人たちはヨーロッパのほぼ全土で教皇軍によって迫害され、異端審問という恐ろしい法廷に引きずり込まれました。そして同時に、神はアラブ人をご自身の道具として用いられました。彼らはイナゴの大群による攻撃と同様の壊滅的な攻撃を実行し、農作物を破壊したため、迫害者たちは聖徒たちの焦点を一時的に自分たちの領土を守る問題にそらすことになった。こうして迫害の日数は短縮されました。もしイスラム教徒のアラブ人がいなかったら、当時盛んだったプロテスタントの改革は完全に崩壊していただろう。黙示録9章の預言は次のように成就しました。

1 - 教皇の軍隊は日曜日を守る者であったため、神の印を持っていませんでした。

2 - 彼らは「イナゴ」に代表されるアラブ人によって攻撃されました。攻撃されたにもかかわらず、彼らは滅ぼされませんでした。これは、「彼らに許されたのは、彼らを殺すことではなく、...彼らを苦しめることであつた」（黙示録9:5）という預言の記述と一致しています。

3 - アラブ人は軍事行動においてプロテスタント改革の信者に嫌がらせをしなかったという話です。これは、第5のラツパの言葉を成就します。「彼らは、その地の草を傷つけてはいけなと言われました...ただし、額に神の刻印のない者にだけ与えられました。」（黙示録9:4）教皇派は攻撃されたが、改革派は温存された。

歴史は、預言が定められた時に成就したことを証明しています。聖書によれば、神のしるしを持たない人々を「5か月間」苦しめるためにイナゴが与えられたという。聖書で言及されている月の日数は、私たちのカレンダーと同じではありません。創世記は、5か月がちょうど150日に相当することを明らかにしています。（創世記7:11; 8:3,4）。第5のラツパのような象徴で明らかにされた預言は、象徴的な方法での時間の解釈も認めています。ダニエルは、「そして日々の終わり、つまり何年の終わりにも」と鍵を与えています（ローマ教皇11:13、アメリカ欽定訳）。したがって、1日は1年に相当します。5か月は150年に相当します。物語によれば、「サラセン人（イスラム教徒）には、東ローマ帝国を150年間にわたって「苦しめ」る「権限」が与えられたが、彼らを「殺す」こと、つまり征服することはできないという。150年は、彼らの上に「王」がいた時代から始まるはずだった。これは11節で理解されます。「そして彼らには深淵の天使という王がいた。ヘブライ語では彼の名前はアバドン、ギリシャ語ではアポリオンでした（Ap.

9:11）。ことわざの本には「イナゴには王がいないが、それでも

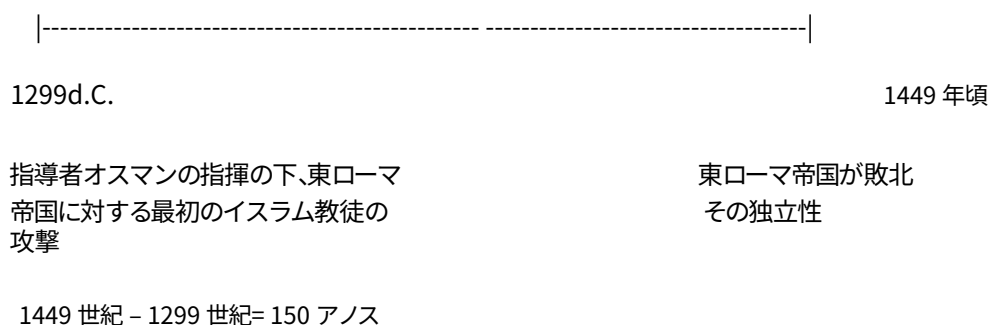
彼らは階級を上げて昇進します」(Pv. 30:27)。例えば、イスラム侵略者の「イナゴ」は、指導者がいてその命令に従うため、高度に組織化されて破壊活動を行っていました。

ムハンマドの死後何百年もの間、彼の信奉者はさまざまなグループや派閥に分かれ、王も中央政府も存在しませんでした。しかし、13世紀の終わりに向けて、オスマン帝国はオスマン帝国として知られる組織的な政府を設立しました。「深淵の天使」は、「使者」または「大臣」を意味するギリシャ語の意味で「天使」と呼ばれています。スルタンはイスラム教の首相となった。名前はヘブライ語で「アバドン」、ギリシャ語で「アポリウム」は「破壊する者」を意味します。これは常にオスマン帝国の総督の性格であった。

誠実な聖書研究者たちは150年前のこの預言の成就について研究し、イスラム教徒の初代「王」オスマンが西暦1299年に東ローマ帝国の文明世界を「苦しめる」ために最初の攻撃を行ったことを発見した。これらの預言の研究者たちは、攻撃がその年の7月27日に起こったというエドワード・ギボنزの肯定的な声明に頼った。歴史によれば、彼らは断続的な攻撃を行いながら、1299年から1499年、ちょうど150年間、完全に支配することなく戦争を続けた。その後、大きな変化が起こりました。

東ローマの皇帝は徐々に弱体化し、腐敗が進み、やがて独立を失うことが誰の目にも明らかになりました。1448年10月31日にヨハネ皇帝が亡くなると、彼の兄弟たちは、1449年1月に兄を新しい皇帝として戴冠させるために、トルコのスルタンであるムラト2世に謙虚に許可を求めました。トルコの人々は、自分たちの独立が終わりに近づいていることを認識していました。」(黙示録の福音書、62、63ページ - ロバート・J・ヴィーランド)

- 5 か月にわたるバツタ襲撃に対する過去の遵守状況:



現在の歴史は、私たちがこの聖書の新たな成就の見通しに直面していることを示しています。西側諸国は世界でテロ行為を行っているイスラム教徒を非難することに忙しい。9/11はアルカイダ組織によって公式に彼らのせいだとされている。さて、独立系メディアは、「アルカイダ」がフロント組織であり、アメリカ人自身が主張するように、9/11は「内部問題」であったことを示す多くの文書を発表した。したがって、イスラム教徒が米国とその国家に対して窒息しているに違いないことは理解される。

その結果、彼らが受けている冤罪と攻撃の同盟者たち。したがって、イラン大統領が権力に対して厳しい発言をするのは驚くべきことではない。この紛争では、カトリックのヨーロッパが米国の同盟者として登場します。

したがって、カトリック教徒とイスラム教徒の間に緊張があることがわかります。過去のシナリオが再び形成されつつある。聖書はこう述べています。そして、行われたことは再び行われるでしょう。太陽の下に新しいものは何もないのです」（伝道者 1:9）。12世紀のイスラム教徒のようなイスラム諸国には、西側の敵に対する十字軍を扇動する共通の指導者がいない。しかし、彼が現れるとすぐに、彼らは黙示録 9 章の預言にある「王」を持つイナゴのように攻撃を開始します。啓示によれば、イナゴには殺す力はなく、苦しめる力があるという。これは、イスラム教徒が戦争に勝つことはなく、いわゆるキリスト教諸国を恐怖に陥れる衝動的な攻撃を開始することを意味します。この中で、戒律を守る者たちを迫害し殺害する活動に従事していた人々は、緊急事態への対応と自分たちの領土を守るために注意をそらさなければならぬ危機的な状況に陥っていることに気づくだろう。こうして迫害は軽減され、最後のメッセージを宣べ伝える業の継続が妨げられることはない。ある意味、預言のイナゴの役割を果たすイスラム教徒は、神の民が経験する艱難の日々を「短縮する」ための神の御手の道具となるでしょう。

（マタイ 24:24）。預言にあるように、イスラム教徒は戒めを守る人たちを特別に扱うでしょう。「彼らは、地の草を傷つけてはいけなと言われました…ただ、額に神のしるしを持たない人に対してのみです。」 9:4)。

黙示録 9 章の預言が再び成就することを考慮すると、イスラム教徒による今後の行動は 150 日間という限られた期間であることがわかります。イエスが再臨される最後の世代である終末期にあるように、これらはもはや年を表す日ではないことに注意してください。これは文字通り、戦争が見られる約 5 か月の日々となるだろう。彼らの後に、最後から二番目の警告が天から地上に送られることになる。

第 8 章 – 第 6 の天使がラッパを吹き鳴らしました...

四人の天使が解放される

「第六の天使がラッパを吹き鳴らした。すると、神の御前にあった黄金の祭壇の四本の角から、ラッパを持った第六の天使に向かって言う声が聞こえた、「ユーフラテスという大河に縛られている四人の天使を解放してください」。そして、人間の三分の一を殺すために、その時、日、月、年のために準備されていた四人の天使が解放されました。騎士の軍隊の数は二億でした。そして私は彼らの番号を聞きました。こうして、私はこの幻の中で馬を見ました。馬に乗っている馬は、火とヒヤシンスと硫黄の胸当てをしていました。そして馬の頭はライオンの頭のようにでした。そして彼らの口からは火と煙と硫黄が出てきました。これら三つの疫病によって、人間の三分の一が、口から出る火、煙、硫黄によって殺されました。馬の力は口と尾にあったからです。彼らの尾は蛇のようで、頭があり、それによって害を及ぼしたからです。これらの疫病によって命を落とさなかった他の人々は、自分たちの手の業を悔い改めず、悪霊や、目にも見えない金、銀、青銅、石、木の偶像を崇拜するのをやめました。聞こえず、歩けません。また

彼らは自分たちの殺人も、魔術も、淫行も、窃盗も悔い改めなかった」（黙示録9:13-21）。

黄金の祭壇

神はモーセに聖所を建て、その中に香をたくための金の祭壇を置くように命じました。「あなたは香をたくための祭壇を作り、純金でその上を覆い、あかしの箱のそばにある幕の前に祭壇を置きます。」（出エジプト記30:1,3,6）。どちらも象徴であり、モーセが幕屋を建てようとしていたときに神から警告されたように、「天上のものの姿と影」でした。「見よ、山で示された型に従いなさい、と言われたからである」（ヘブライ人への手紙 8:5）。ヘブライ人の聖所は天の聖所のコピーでした。「キリストは、手で造られた聖所、まことの姿ではなく、天国そのものに入ってきたからです。」キリストは「天において陛下の御座の右に座され」、「人ではなく主が建てられた聖所と真の幕屋の奉仕者」がおられます（ヘブライ 9:24; 8:1）。、2）。聖所はベールで区切られた2つの区画に分かれていました。ここは聖地と呼ばれます。しかし、第二の幕の向こうには至聖所と呼ばれる天幕があった。」（ヘブライ人への手紙 9:2,3）。



図 - 聖なる場所（右、司祭がいる場所）と最も聖なる場所（左）

聖なる区画の家具の中に香壇があり、最も神聖な場所から区画するベールの隣に置かれていました。神はモーセに、「あなたはあかしの箱のそばにある幕の前に祭壇を置きなさい」（出エジプト記31:6）と言われました。ヨハネは、真の聖所にある黄金の祭壇の幻を見ました。「神の前にあった金の祭壇の四隅から声が聞こえた」（黙示録9:13）と報告しました。これはそこで奉仕している誰かの声でした。モーセの神殿では、司祭だけが聖所で奉仕することができ、そこで彼らは天国で私たちのために執り成してくれる真の大祭司であるキリストを代表していました。パウロは主についてこう述べています。「わたしたちにはこのような大祭司がいます。彼は天で陛下の御座の右に座し、人間ではなく主が建てられた聖所と真の幕屋の奉仕者です。」（ヘブライ 8:1,2）。ヨハネが祭壇の角笛で聞いた声は、キリストの声です。「キリストはラツパを持った第六の天使に言った、「ユーフラテスという大河に縛られている四人の天使を解放してください。」そしてその時のために用意されていた四人の天使が解放された

そして日、月、年、人間の三分の一を殺す。騎士の軍隊の数は二億でした。わたしは彼らの数を聞いたからである」（黙示録 9:14,16）。

この一節では、これまでに見たことのない戦争が描かれています。第二次世界大戦で亡くなった人の数は、この紛争に従事した騎士軍の数には及びません。歴史上、これほど大勢の人々が軍事行動に参加したことはありません。したがって、このビジョンが完全に実現されるのは将来であると結論付けられます。

この預言は、戦争を起こす「四人の天使」が「ユーフラテスの大河に閉じ込められている」ことを明らかにしています（黙示録9:14）。この表現はどのように理解されるでしょうか？聖書には、悪霊は深淵に行きたがらないと書かれており、悪霊の牢獄がそこにあることを示唆しています（ルカ8:30,31）。したがって、言及された場所は、悪魔が実際に閉じ込められている場所ではなく、悪魔が破壊を実行しようとしたが阻止された場所を指していることが理解できます。ユーフラテス川は現在のアラビアに位置し、イラクの大部分を流れています。聖書の本文は、サタンの天使がその地域で大規模な戦争を促進するのを阻止していることを示唆しています。これはなんと今日の真実を描写しているのでしょうか！米国はほぼ10年にわたりイランを侵略すると脅し続けている。イランは世界最大の石油生産国の一つです。多くの国がそこに利権を持っています。

専門家らは、米国とイランの間の戦争は急速に世界規模の紛争に発展する可能性があるとは指摘している。そのような戦争は第6のラッパの記述で予言されている。しかし、預言は、彼女がそこに示された時間まで拘留されることを明らかにしています。その後、イエスは四人の悪霊にその働きを許可します。その預言は私たちの目の前で成就します。

「そして、私はこの幻の中で馬を見ました。馬に乗っている馬は、火とヒヤシンスと硫黄の胸当てをしていました。そして馬の頭はライオンの頭のようなものでした。そして彼らの口からは火と煙と硫黄が出てきました。これら三つの疫病によって、人間の三分の一が、口から出る火、煙、硫黄によって殺されました。馬の力は口と尾にあったからです。彼らの尾は蛇のようで、頭があり、それによって害を及ぼしたからである」（黙示録 9:17,19）。

ジョアンは戦争装置を目にし、彼はそれを自分の知っている要素を使って説明しました。

当時、戦争に備えた馬は、敵の槍や剣で怪我をしないように保護カバーで覆われていました。預言者にとって、金属で覆われた終末戦争機械は彼らに似ていました。今日、私たちは移動する戦艦を「戦争戦車」と呼びます。この理解は、ジョンが戦艦の口から火、煙、硫黄が出てくるのを見たという事実によって強化されます。これらは点火時に戦車の砲身から出てきます。しかし、今日（2010年）の私たちにとってさえ、これらの予言マシンは超現代的なものに見えます。私たちが知っている戦車では、発射体（弾丸）は一種のパイプ、つまり大砲から発射されます。しかしジョアンは、銃弾が飛び出す機械の頭部が幅広でライオンのように見えることに気づきました。そして、彼らが発射した発射物の破壊力は、この世代の人々さえも驚かせました。これらの3つの疫病によって、つまり口から出た火、煙、硫黄によって、人類の3分の1が死亡しました。このことから、それらは原子爆弾を発射する核戦車である可能性があると考えられます。このような戦車はすでに存在しているが、まだ使用されていないと言う人もいます。独立系ジャーナリストらは、イランとの戦争でこのような戦車を使用する計画があるとさえ主張しているが、憶測はともかく、聖書にはこれらの戦車によって地球上の人類の3分の1が死亡すると書かれているのが事実である。彼らが巻き込まれる戦争

使用すると混乱が生じます。第三次世界大戦は起こるのかという疑問に対する答えがここにある。テキストはそのとおりであることを明らかにしています。

なぜイエスはそのような壊滅的な戦争を許したのでしょうか？

7番目のラッパが鳴り響くと、キリストは二度目に地上に戻ってきます。つまり、第6のラッパの時代が世界にとって最後のチャンスなのです。キリストは人間が、一般に、彼は困難に苦しんでいるとき、自分の救いと永遠の幸福に関心を向けます。したがって、神は、まさにご自分の血で買った人々を見上げ、神を受け入れ、自分たちを救うよう導く目的で、戦争が起こることを許しておられます。最近のことであることを考えると、神は人々を救うために、より抜本的な措置を早急に講じる必要があります。息子が不従順のせいで大きな苦しみに瀕しているのを見て、正すための最後の手段として鞭を使う父親と同じように、キリストは天使たちに、その瞬間まで抑えられていたサタンを解放するよう命じます。そして彼らは各国の首脳を戦争に駆り立てるだろう。

聖書本文は、第六のラッパの時代の終わりに、悔い改めない者はもはや悔い改めないであろうことを私たちに理解させます。悪霊や、見ることも聞くことも歩くこともできない金、銀、青銅、石、木の偶像を崇拝することをやめなさい。彼らは自分たちの殺人も、魔術も、売春も、窃盗も悔い改めなかった。」

(黙示録 9:20,21)。この階級の罪の中で、金、銀、青銅、石、木の偶像を崇拝することが強調されています。画像。キリストは私たちに、その時に彼らの中にいないようにと警告しておられます。現在、多くの人が彫像を神とみなしたり、神や聖人の単なる象徴とみなしたりして、誠実に崇拝していることは事実です。その行為に至った理由が何であれ、聖書はこの行為を非としています。地球の下にある水。あなたは彼らにひれ伏してはならないし、彼らに仕えてはならない。というのは、あなたの神、主であるわたしはねたむ神であり、わたしを憎む者たちの三代、四代に至るまでの子供たちに対する父親の咎を訪ねているからである。そして、わたしを愛し、わたしの戒めを守る何千人もの人々に憐れみを示してください」(出エジプト記 20:4-6)。今日、多くの人が像崇拝者となっており、人気のある教会からこの習慣を学びました。聖書は、私たちが真理について啓発されたら、主は私たちがご自分に従うことを期待しておられると教えています。そこで彼は、自分が任命した男を通して正義をもって世界を裁くだろう。そしてイエスはこのことをすべての人に告げて、イエスを死者の中からよみがえらせた」(使徒17:30,31)。

第6のラッパの記述は、真理について啓発された後、神に反逆し、不正行為に留まり続けて救いの安全を得るのは無駄であることを示しています。「汚すもの、忌まわしい行為を行うもの、嘘をつくものは何も新しいエルサレムには入りません(黙示録21:27)。キリストの福音は、聖書が非としている悪の行為に対する勝利を告げています。しかし、神は人間に、助けなしに一人でそれを行うようには求めません。「キリストの福音は、信じるすべての人に救いをもたらす神の力である」(ローマ1:16)。福音は、人間が悪を捨てて善を行うことを可能にするために人間が利用できる神の無限の力を示しています。

受け入れるか拒否するかは人間の選択次第です。それを受け入れるなら、あなたにはすでに放棄する力があります

福音は神の力だからです。それを拒否した場合、つまりそれを信じることを拒否した場合、あなたには力がありません。

第六のラッパの終わりには、悪人はもはや悔い改めないで、地球上のすべての住民に送られる最後の招待状の形で、福音が力強く宣べ伝えられるのはこの時期でなければなりません。黙示録の一連の記述は、まさにこの作品、つまり大声での叫びを表しています。これは地上の神の民を通しての神の恵みの素晴らしい現れとなるでしょう。戦争が激化する中、迫害のために全地に散り散りになった神の聖徒たちは、キリストが彼らに託した「行ってすべての国民を弟子にしなさい」（マタイ28:19）という使命を最終的に果たすこととなります。教会が平和な時代に行わなかったことは、患難の時代には行うでしょう。

「そして、御国のこの福音は、すべての国々へのあかしとして全世界に宣べ伝えられ、その後、終わりが来るのです」（マタイ24:14）。使徒たちの教会の歴史は繰り返されるでしょう。「そしてその日、エルサレムにあった教会に対して大規模な迫害があった。そして彼らは皆散り散りになりました…散り散りになった人々はどこへでも行って御言葉を宣べ伝えました」（使徒8:1,4）。ペンテコステの記念すべき祝日に、主はご自分の霊をたっぷりと僕たちに注がれ、その結果は素晴らしいものでした。福音は数十年以内に地球上のすべての人々に宣べ伝えられました（コロサ、

1:23）。そして、終わりの日にはさらに大量の豪雨が予測されています…

第9章 天使の高らかな叫び

神は黙示録の中で、他のどのラッパよりも第六のラッパの成就に関する詳細を伝えるために多くのスペースを割きました。最初の4つを説明するために、6節が分割されました（黙示録8:7-12）。第6章は、ほぼ3章丸ごとに相当しました（4月9、10、11日）。彼は何も偶然ではない。イエスは、黙示録の最後のラッパである7番目のラッパの音とともに戻って来られます（1コリント15:51-53、1テサロニケ4:15-17）。6番目はその直前に来ます。したがって、それは、私たちの主イエス・キリストが来られる前の、地上に住む人々にとっての最後の機会の時を示しています。それは、反抗的な罪深い子供たちを取り戻させ、罪を悔い改めてイエスを信じさせることを切望する父からの最後の愛の招きです。聖書を誠実に学ぶ人がこの時期に起こる重要な出来事を見落とさないように、彼は第6のラッパの啓示を通してそれを詳細に説明しました。創造主は、恵みの時の終わりに関連する出来事を私たちに知らせたいと願われました。これは、誰も気づかずに彼らの前を通り過ぎないようにするためであり、手遅れになって初めて目を覚ますことができました。「私たちの救い主である神は…すべての人が救われることを望んでおられます」（1テモテ2:3,4）。

前の章では、黙示録9章で報告されている第6のラッパの最初の部分を学びました。続きまして、10番からいきます。

「そして私は、雲をかぶった別の強い天使が天から降りてくるのを見た。そして彼の頭の上には天のアーチがあり、彼の顔は太陽のようであり、彼の足は火の柱のようでした。そして手には小さな本を開いて、右足を海に、左足を陸に置きました。そして彼はライオンが吠えるときのように大声で叫びました。そして彼が叫ぶと、七つの雷が声を発した。そして、七つの雷の音が聞こえたとき、私はそれを書こうとしましたが、天からの声が聞こえました、「七つの雷が言ったことを封印し、それを書くのはやめてください」。そして私が海と地の上に立っているのを見た天使は天に向かって手を上げ、永遠に生き、天国を創造した方にかけて誓った。

そこには、地球とそこにあるもの、そして海とそこにあるものがあるので、これ以上遅れることはありません。しかし、第七の天使の声の日に、彼がラッパを吹くとき、神が神の僕たちである預言者たちに告げたように、神の秘密は成就するであろう。」（黙示録 10:1-7）。

このビジョンには、象徴的であることが判明するいくつかの要素が示されています。火柱のような足を持ち、ライオンのように咆哮する天使。とりわけ、7つの雷が話しています。メッセージを理解するには、シンボルを解釈する必要があります。そうするための唯一の安全な方法は、聖書を独自の解釈者にするということです。

ビジョンの時間

黙示録 9 章は第三次世界大戦について次のように描写しています。騎士の軍隊の数は二億でした。そして私は彼らの数を聞きました…男性の3分の1が殺されました」（黙示録 9 :16-18）。第10章では、9のナレーションが続くので、示されている時代は第三次大戦の最中である。

頭上に天の弓をかぶった天使

「そして私は、雲をかぶった別の強い天使が天から降りてくるのを見た。そして彼の頭の上には天の弓があり、彼の顔は太陽のようであり、彼の足は火の柱のようでした。」

（黙示録 10:1）。聖書の「天使」という言葉は、「激しい」と読む原文の翻訳を指しており、「使者」という意味もあります。パウロはガラテヤの人々にこう書きました。「あなたは私を神の御使いとして受け入れてくださいました」（ガラテヤ4:14）。ヨハネは、天のアーチが頭の上にあるのを見ました。これは、洪水の直後にノアに与えられた、神と人間との間で結ばれた契約のしるしです。永遠の世代の皆さんとともに。私の弓は雲の中に置かれました。これはわたしと地との間の契約のしるしとなるであろう」（創世記9:12,13）。天使がその頭の上に契約のしるしを持っているという事実は、神の人類との契約が彼の中で、彼の人格において結ばれたことを示しています。パウロは自分が誰であるかを明らかにしています。「さあ、約束は…キリストに対してなされました。」「神の約束はすべて神の中にあります。そして彼を通して、アーメン。」彼は「より良い契約の仲介者であり、それはより良い約束によって確立されます」（IIコリント 1:20; ガラテヤ 3:16; ヘブライ 8:6）。「神と人間の間には一人の仲介者、すなわち人間イエス・キリストがいるからである」（Iテモテ 2 :5)のは神だけである可能性があります。シンボルから得られる他の証拠もこれを裏付けています。彼の顔は太陽のようでした。第1章では、イエスは「顔が太陽のようだった」（黙示録 1:16)存在です。第10章では、足が火の柱であると説明されています。そして最初の人、イエスについてこう言います。「その足は、まるで炉で精錬されたかのように、輝く真鍮のようだった」（黙示録 1:15）。本文には、天使が雲の衣装を着ていたとも記されています。この比喻は出エジプト記の記述を思い出させます。雲に覆われ、誰かがイスラエルの民を率いて砂漠を旅しました。パウロはこう明言しています。「兄弟たち、私たちの先祖たちが雲の下にいて、全員が海を通り抜け、……そして彼ら全員が同じ霊的な飲み物を飲んだということを、あなたたちには気づかせないでほしいのです。なぜなら、彼らは一緒に付いていた霊的な石から飲んだからです。彼ら;そしてその石はキリストであった」（Iコリント 10 :1,4）。したがって、キリストは雲に包まれた彼の同伴者でした。黙示録 10 章 1 節のすべてのシンボルは主を指します。

世界中に届くメッセージ

天使は「…右足を海に、左足を陸に置きました。そして彼はライオンが吠えるときのように大声で叫びました。そして彼が叫ぶと、七つの雷がその声を発した」（黙示録10:2,3）。聖書の文脈では、「何かに足を置く」

支配を表すと同時に、「良い知らせを告げるために到着する」ことを象徴します。預言者ナホムはこう言いました。「見よ、良いたよりをもたらし、平和を告げる者の足は山の上にある！」（ナハ 1:15）。したがって、黙示録 10 章では、イエスが終わりの日の良い知らせを告げている人物として描かれています。しかし、私たちは、イエスがずっと前に天国に行き、今日までそこに留まり、私たちのために執り成しを行っていることを知っています。では、ジョンのビジョンはどのように実現されるのでしょうか？答えは、「神の僕たちを通して」です。イエスは、「はっきり言いますが、あなたがわたしの兄弟たちの中で最も小さい者の一人にしたのと同じことは、わたしにしたのです」（マタイ 25:40）と述べ、ご自分が彼らの代表であることを示されました。パウロも同様に、「あなたは私を……まるでキリスト・イエスのように受け入れてくださいました」（ガラテヤ 4:4）と述べました。

4:14）。このように、地上での人間の使者の説教を通して、キリストご自身が世界に良いたよりを発表し、ヨハネのビジョンを実現します。

彼は右足を海に置き、左足を陸に置きました。私たちの地球は、乾燥した部分（陸地）と水（海）で構成されています。神は陸と海の両方を一緒に言及します。主が地球全体の創造者であるという考えを伝えるためです。「主は六日間で天と地と海とそこの中にあるすべてのものを造られたからです」（出エジプト記20:11）。したがって、「両足を踏んでいるイエス」という表現に言及する代表的な象徴主義を通じて使用されるリソースは、良いたよりが実際に地球上のあらゆる場所、つまり大陸や海の島々で発表されることを示しています。この象徴を通して、神ご自身が私たちの間にお住いになったときになされた次の宣言の成就が描かれています。」（マタイ 24:14）。

この意味で、啓示はメッセージの範囲を示すだけでなく、その本質とそれに与えられる力も示しています。ヨハネは、イエスが「ライオンがほえるときのように大声で叫んだのを見ました（黙示録10:3）。ライオンは狩りをし、獲物をむさぼり食う直前に「咆哮」します。これはあなたの勝利の発表を表します。ライオンの咆哮に代表されるイエスの叫びは、勝利を告げるメッセージを指します。したがって、神によって達成された勝利は、サタン、その軍勢、そして罪に対してのものです。福音はそれを世界に告知させます。

例えば、「イエスは大声で叫びました（3節）」というイエスの代表的な象徴によって表された啓示を基礎として考えてみましょう。第 10 章の説明では、それがどのメッセージを指しているのかについて疑問の余地はありません。それは「高らかに」宣べ伝えられる「福音」を表しています。黙示録 14章6節にはこう書かれています。「私は別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを聞きました。そして彼は永遠の福音を持っていて、地上に住む人々、そしてあらゆる国民、血族、言語、民族にそれを宣べ伝えました。と大声で言いました。」（黙示録 14:6）「獅子の咆哮」は黙示録14章のメッセージの発表となります。

この中でヨハネは「別の天使の声を聞いた」と報告しています。つまり、彼は別の人、つまり彼の前に来た人を指します。私たちは第 8 章でこの天使に出会います。

「そして私は、天の真ん中を飛んでいる天使が大声でこう言っているのを聞きました。「災い、災い、地上に住む者たちに災い、災い、災い、地上に住む者たちよ。まだこれから出てくる三人の天使のラッパの声のせいで」音！」（黙示録 8:13）。

注記：

「そして私は天使を見て、聞いた…」黙示録 8:13

「私は別の天使の声を聞きました…」黙示録 14:6

つまり、明らかな関連性が存在します。つまり、それらは相互にフォローし合っているのです。また、前述の黙示録 14 章の天使は一人で来ません。これに他の 2 つが続きます。

「別の天使がついてきて言った…」 (黙示録 14:8)

「そして、第三の天使が彼らを追って、大声で言いました…」 (黙示録14:9)

つまり、合計 4 人の天使が、一度に 1 つずつ順番にメッセージを伝えます。黙示録 8 章の天使は、「これから鳴り響く三人の天使のラッパの声」を告げます。3 つのトランペットの声と黙示録 14 章の 3 人の天使のメッセージの間には明らかな関係があります。どちらも黙示録 8 章の天使の発表に従っています。以下の表を参照してください。

トランペット:	第4		5番目「天	金曜日	7番目
アンジョス・デ・アボック。 14:		使…」「もう一人 アボック。 8:13	の天使Ⅳ. 6 「第二の天	使Ⅳ. 8 「第三の天使Ⅳ. 9	

すでに学んだように、黙示録 8 章の天使は 4 番目のラッパの後にメッセージを伝えます。次に、最後の 3 つのトランペットと、黙示録 14 章の第一、第二、第三の天使のそれぞれの声が続きます。

黙示録 10 章に戻ると、その説教がライオンの鳴き声にたとえられるメッセージは、黙示録 14 章の三人の天使のメッセージであることがわかります。彼らは一緒になって「永遠の福音」を構成します(黙示録 14:7)。このメッセージは、恥ずかしがらずに大きな声で宣言されます(10:3; 14:7,9)。主はこう言われます。「臆病者は……彼らの役割は火と硫黄で燃える湖の中で受けることになり、それが第二の死である」(黙示録21:8)。したがって、キリストとそのメッセージを恥じる人々は、例えば、仕事、友人関係、その他の世俗的なものを失う可能性などの困難に直面したとき、退却して信仰を放棄すると、この階級の一員となります。臆病な人たちのこと。私たちは自分の言葉と行動によって、キリストの者、あるいはそのメッセージを拒否する者の中に入るために常に自分自身を備えています。2クラスのみとなります。イエスはこう言われます。「ですから、人々の前でわたしを告白する者は、わたしも天におられるわたしの父の前で告白します。しかし、人々の前でわたしを否認する者は、わたしも天におられるわたしの父の前でその者を否認するであろう」(マタイ10:32,33)。キリストは真理です(ヨハネ 14:6)。神を告白ということは、真理を信じて実践することを意味します。聖書は十戒の法則が真理であると宣言しています。したがって、神を告白することは戒めに従うことです。そのメッセージは、それによって聖化された者たちに、大声で叫びながら伝えられるでしょう。したがって、今日、私たちが御言葉を聞くだけでなく、キリストの恵みとキリストへの信仰によって、実行者となり、キリストの戒めに従順になることが重要です。

以下に、世界に向けて大きな力をもって宣べ伝えられるメッセージの要約を紹介します。彼女について詳しく知りたい場合は、Editora Advertência Final 発行の次の本を読むことをお勧めします。

- 大論争

- 未来を明らかにする

- 最後の教皇

- 信仰による義認 - Vol. 2 IとII

「そして私は、別の天使が天の真ん中を飛んでいるのを見た。そして彼は、地上に住む者たち、すべての国民、同族、言語の人々、そして人々に永遠の福音を告げ知らせ、大声でこう言った、「恐れよ」。神よ、彼に栄光を与えてください。神の裁きの時が来たからである。そして天と地と海と水の泉を造られた方を崇拜しなさい。第二の天使が彼に続いて言った、「大いなるバビロンは倒れた、倒れた、そのせいですべての国々が彼女の淫行の怒りのぶどう酒を飲まされたのである。」そして、第三の天使が彼らに続いて、大声で言いました、「もし誰かがその獣とその像を崇拜し、額や手にその刻印を受けたなら、その人も用意されている神の怒りのワインを飲むでしょう」混じりけのない、神の怒りの杯の中で。そして彼は聖なる天使たちの前と小羊の前で火と硫黄で苦しめられるだろう。彼の苦しみの煙は永遠に永遠に続く。そして、獣とその像を崇拜する者には昼も夜も休むことができなく、またその名のしるしを受け取る者も同様である。ここに聖徒たちの忍耐、神の戒めとイエスの信仰を守る者の忍耐がある」（黙示録14:6-12）。

メッセージは最初に神の裁きを告げます：「神の裁きの時が来た」。

「わたしたちは皆、神の裁きの座の前に出ます」（ロマ14:10）。だからこそ準備が必要なのです。備えの形は、「神を畏れ、神に栄光を帰せよ」（黙示録 14:7）というメッセージに示されています。神を畏れるということは、神の戒めを守ることです。これはすべての人の義務だからです」（伝道 12:13）。神を恐れる方法を私たちに教えるために、神は私たちに例を示しました。エッサイの子孫であるイエス・キリストです。そして主の霊が彼の上にとどまり、知恵と理解の霊、助言と力の霊、知識と主への畏れの霊が宿るであろう。そして彼は主を畏れることを喜ぶだろう」（イザヤ書11:1-3）。神を畏れるということは、キリストのようになり、性格が神に似ることです。「私は父の戒めを守ってきました」と彼は言いました。「もしあなたがたがわたしの戒めを守るなら、わたしが父の戒めを守り、父の愛の中に留まると同じように、あなたもわたしの愛の中に留まるでしょう。」（ヨハネ15:10）。本当に神を畏れる人は、戒めを守る方法をキリストから学びます。聖書の研究を通じて毎日主を熟考し、その教訓を実際の生活に適用することによって、私たちは主によって変えられます。

イザヤ書の本文は、イエスがいかに神を畏れていたかを示しています。「主を畏れる霊が彼の上にとどまる」。同じことが私たちに約束されています。すなわち、真理の御霊……わたしはあなたたちを孤児として放っておかない、わたしはあなたたちのところに来る」（ヨハネ14:16-18）。イエスを神を畏れる人にしたのと同じ霊が私たちにも送られています。したがって、私たちは神が受けたのと同じ助けを受けるので、神と同じようになれることがわかります。神にとって不可能なことは何ともありません。たとえば、神の御霊によって、キリストがこの地上を歩まれたように、私たちが歩むことができるようになります。したがって、このように変えられた私たちは、次のように書かれていることと調和して、自分の生活の中で神の栄光を現すために生きます。:31)。これは天使のメッセージの2番目の部分です。「主に栄光を帰してください」（黙示録 14:7）。

イエスは宣教の終わりに御父にこう祈りました。「わたしは地上であなたの栄光を讃えました。

あなたが私に命じてくださった仕事を終えたのです」(ヨハネ17:4)。彼は従順の模範であり、神に栄光をもたらしました。主を恐れる精神を受けた人は皆、自分の人生において主に栄光を帰し、イエスと同じように主の戒めに従い、かつてのように神に従順になります。私たちが神を畏れ、人生において神に栄光を帰すなら、裁きの備えができています。

永遠の福音の提示を続けて、別の天使が最初の天使に続いてこう言います。「大いなるバビロンは倒れた、倒れた。それはすべての国々に彼女の淫行の怒りのぶどう酒を飲ませた。」(黙示録14:8)。バビロンは混乱を意味する「バベル」という言葉に由来しています。霊的な意味で理解すると、これは現在と将来、つまり第6のラッパの時点の教会の状態を適切に表しています。牧師は神の言葉を傷つけるような混乱を招く理論を説きます。例えば、イエスがサタンに対して用いた唯一の武器である「こう書かれている」は、人間の教義に置き換えられ、その中には理性や常識からかけ離れた人間もあり、全く知識のない人でも重大な誤りと認識できる。聖書を読んでください。それらは真実と誤りが混ざった、混乱を招く理論です。その良い例が三位一体の教義です。それは、エジプト人、ペルシア人、バビロニア人、ギリシャ人、ローマ人によって信じられていた異教の信仰でした。

ローマ帝国によってキリスト教に導入され、教会組織によって永続させられ、徐々に受け入れられていきました。しかし、1が3であり、3が同時に1であると信じることは、理性と常識に反します。「三位一体」という言葉は聖書には登場せず、4世紀までキリスト教会にもその言葉は存在しませんでした。その後、ローマ皇帝コンスタンティヌスによって始められた異教とキリスト教を混合する作業を通じて、教会に導入されました。使徒教会の純粋さは異教の誤りの導入によって損なわれ、この混合から生まれた宗教は帝国の普遍的な宗教となった。ユニバーサルとはカトリックを意味します。帝国はローマ帝国であったため、教会はローマカトリックになりました。それはもはや使徒の教会ではありませんが、彼らが説いた純粋な真理を放棄したため、「使徒」という称号を取得し、それを含めました。実際、法律上、この名前は使徒の教義を維持する人々に属しており、彼らは帝国の宗教の高官によって迫害され、禁止され始めました。真の「使徒」教会は、使徒たちの経験、つまり仕事、貧困、迫害を経験し、その指導者たちが狂信的な迫害者の狂気の怒りの犠牲になるのを目の当たりにし続けました。もう一つの帝国の背教公式教会は、異教のバビロニア人の信仰を採用し、キリストが与えた称号「バビロン」に忠実でした。その後何世紀にもわたってこの正式な教会を離れたすべての改革者たちは他の教会を設立しましたが、その教会は母教会に導入されたいくつかの誤りを放棄しましたが、使徒教会の元の純粋さには戻りませんでした。彼らはいわばバビロンとの教義上の結びつきを維持していました。これを証明する一例は、日曜日を休日として守るという一般的な教えですが、聖書にはその裏付けがありません。

第二の天使は「バビロンは倒れた、倒れた」と告げます。このメッセージには、真実と混同された誤りを教えるすべての教会が含まれています。これらの会衆の指導者たちは、自分たちの群れの羊を教会内に留めておきたいという熱意から、自分たちの教えに聖書の権威がないことを、「この教会の外には救いはない」などの迷信的な発言で補っています。あたかも神が彼らのつまらない考えに限定され、彼らが望む人々にのみ救いの恵みを注いでいるかのようです。彼らは利己的な野心に神ご自身に従属させます。しかし、真実はそれとは程遠いのです。「神は、ご自分の独り子をお与えになったほどに、世を愛されました。それは、彼を信じる者が一人も滅びず、永遠の命を持つためです。」(ヨハネ 3:16)また、あたかも聖書が真理の確かな兆候であるかのように、奇跡が聖書の真理に取って代わると主張する人もいます。

本当の教会。しかし、聖書は、「偽キリストや偽預言者たちが立ち上がって、できれば選ばれた人々さえも欺くであろう大きなしや不思議な出来事を示すであろう」（マタイ24:24）と述べています。したがって、奇跡は神の力の発現の証拠とはみなされません。奇跡を起こす人は、次のような聖書の基準によって評価されなければなりません。もし彼らがこの言葉に従って語らなければ、彼らに朝は来ないであろう」（イザヤ 8:20）。もし彼らが十戒の律法を守らなかったり、それを踏みにじったり、それがもはや人間には効力を持たないと説教したりするなら、彼らに朝は来ないでしょう。彼らは翌日、神が造られる、義が住む新しい地の朝に参加することはないでしょう。

聖書は、制度として誤りを説く教会には救済策がないことを証明しています。「私たちはバビロンを癒したかったのですが、彼女は癒されませんでした。彼女を捨てて、それぞれ自分の国へ行きましょう。彼の裁きは天に届くからである。」「そして、私は天から別の声を聞きました。こう言うのです。「私の民よ、彼女から出て行きなさい。彼女の罪にあずからず、彼女の災いを受けないように。」彼女の罪は天に達し、神は彼女の咎を覚えておられたからである。」（エレミヤ 51:9; 黙示録 18:4-

6)。このメッセージは今日からですが、第6ラッパの吹奏時に特別かつより雄弁な方法で、すべての誠実な人々に対し、墮落した教会を改革しようとする努力に時間を無駄にすることなく、墮落した教会を放棄するよう呼びかけています。こんなことは不可能でしょう！

「そして、第三の天使が彼らを追って、大声で言った、「もし誰かがその獣とその像を崇拝し、額や手にその刻印を受けるなら、その人もまた神の怒りのワインを飲むでしょう。神の怒りの杯の中で、混合物なしで準備されているのが発見されました。そして彼は聖なる天使たちの前と小羊の前で火と硫黄で苦しめられるであろう。」（黙示録 14:9,10）。

獣が誰であるかについてはすでに第7章で学びました。それは、州政府の権限を強奪して**迫害し殺害する教皇庁を表しています**。その権力は教皇によって代表されています。あなたの権威のしるし - 日曜日:

「しかし、プロテスタントは、日曜日を守ることによって、教会の代弁者である教皇の権威を受け入れていることに気づいていないようです。」出典: Our Sunday Visitor, Catholic Weekly, 1950年2月5日号(強調追加)。

獣を崇拝するという事は、教皇を崇拝することを意味します。今日、多くの人にとって、これが現実になるとは考えられませんが、サタンが反キリスト、つまり「復活」したと思われる教皇を世界に提示するとき、警告の理由はよりよく理解されるでしょう。世界は詐欺師の前にひれ伏すだろう。世界の法と秩序に反抗するこの少数の信者たちも頭を下げるべきではないでしょうか？ - 彼らは考えるでしょう。手と額に権威の証を受けるということは、教皇の日である日曜日に仕事を止めることを意味します。

そしてそれを真の休息の日として知的に受け入れてください。右手は仕事を表すサインです。聖書では、「私の手を彼に逆らわせないでください」という表現は、「私が彼に敵対しないようにしてください」という意味を持っています（サムエル上18:17）。サムエルの物語では、ダビデを自分の手で殺したくなかったサウルと関係しています。労働組合の旗の中には、聖書の象徴を借りて、手を握りこぶしを組んだデザインが見られるものもあります。次に、額は意識、心と関係しています。

教皇庁が政府の権威を利用して迫害したり殺害したりする権限を持たない限り、それは「野獣」の地位に達していないことを意味する。ただし、これはすぐに起こります。

これが起こると、彼は再び黙示録で完全に特定されるでしょう。

「beast」、日曜日は「thesign of the Beast」になります。立法当局が日曜日の休息を義務付ける法律を制定すると、第四戒の安息日の代わりに日曜日を守る者は獣の刻印を受けることになる。このようにして、神のみにふさわしい敬意を人々に払うことになるのです。第三の天使は次のように警告しています。「もしだれかが獣とその像を崇拜し、その額や手にその刻印を受けるなら、その人は神の杯で混合物なしで準備された神の怒りのワインも飲むことになるでしょう」意思"。神の怒りは最後の恐ろしい七つの災いとして注がれます。「私は天でもう一つの偉大で素晴らしいしるしを見た。七人の天使が最後の七つの災いを患っている。彼らの中で神の怒りは終わったからである。」(黙示録15:1)。後で見るように、神の怒りの杯は最後の疫病の際に注がれます。第三の天使は、この脅威にさらに重大な判決を加えます。「彼は火と硫黄で苦しめられるだろう」。第20章はこの瞬間を次のように報告しています。「死と地獄が火の湖に投げ込まれた。これは第二の死である」(黙示録20:14)。もし二度目の死が起こるとしたら、それは死者が最後の宣告を受けるためによみがえるからである。「私は大きな白い玉座と、その上に座っておられる方を見た。その御前から地も天も逃げ去り、彼らの居場所はどこにも見つからなかった。そして、私は死人が大なり小なり玉座の前に立っているのを見た、そして本が開かれた。そしてもう一つの本が開かれました、それは人生の本です。そして死者たちは、その書物に書かれていること、その行いに応じて裁かれた。そして海はその中にいた死者を放棄した。そして死と地獄はその中にいた死者を放棄した。そして、彼らは人ごとにその行いに応じて裁かれた。」(黙示録20:11-13)。獣を崇拜し、その刻印を受ける者は、この世と来るべき命を失うこととなります。彼らは二度目の死を迎え、永遠に死ぬことになるでしょう。永遠に燃え続けるわけではありません。そのような罰は愛の神の人格を正当に評価するものではありません。人間の父親が息子に永遠の火刑を宣告するのはどのような罪でしょうか？

なし ！邪悪な私たちが子供たちにそんなことをすることができないのなら、ましてや神はそうすることはできません。「神は愛です」(1ヨハネ4:8)。愛の神が、悪の実践を通じて自分自身と他人を破壊する仕事において自分自身を完成させた存在に対してできることは、慈悲深くその存在に決定的な終止符を打つことだけだ。

神は彼らに彼らの働きに対して正当な対価を与えた後、彼らが犯した罪に比例して焼かれるでしょう。ただし、永遠に燃え続けるわけではありません。「見よ、その日は火のように燃え上がる。高慢な者や悪を行う者はみな無精ひげのようになる。そして来ようとする日が彼らを焼き焦がし、彼らの根も枝も残さないようにすると主は言われる...そしてあなたは悪者を踏みこむでしょう、彼らはあなたの足の裏で灰になるからです。その日、わたしはそうする、と主は言われる。」「そして彼らは、まるで最初から存在していないかのようになるでしょう」(マタイ4:1,3; オバブ1:16)。

第三の天使のメッセージが耳を貸さないことがあってはなりません。地球上のすべての人が彼のアドバイスに従うことが最も重要です。それを受け入れることがあなたの魂を救うでしょう。それによって全世界が決断に導かれ、正義の者と邪悪な者のグループが最後の収穫の機を熟すことになる。

猶予時間の終わり

「…彼は右足を海に置き、左足を陸に置きました。そして彼はライオンが吠えるときのように大声で叫びました。そして彼が叫んだとき、七つの雷がその声を発した。」(黙示録10:2,3)。最後のメッセージを説く働きを終え、叫び声を上げた後、七つの雷が声を響かせた。預言はこの箇所では恵みの期間の終わりを示しています。イエスは人々の心に神の愛と寛容な慈悲を受け入れるよう説得するために全力を尽くし、ついに電話を切る時が来ました。そして、すでに叫んだ後、7つの時間が来ます

雷が彼らの声を響かせます。それはどういう意味ですか？過去を簡単に振り返ってみると、私たちは啓発されるでしょう。かつて、イエスが「父よ、あなたの御名を栄光づけてください」と言われた後、「そのとき、天から声が聞こえました。私はそれに栄光を与えました、そして私は再びそれに栄光をもたらします。」それで、そこにおいて、それを聞いていた群衆は、雷が鳴ったと言いました」（ヨハネ12:28,29）。父の声は雷のようでした。黙示録には、「七つの雷が声を発した」と書かれています。雷は文字通りに話すわけではないので、この言語は象徴的なものです。数字の7は、完全なもの、完全なものを意味します。一例として、神が定めた曜日があります。7日間で完全な1週間に相当します。したがって、七つの雷は全力を尽くした神の声を表します。パウロは、神が語りかけ、その声の力が天と地を揺るがすこの将来の時を指して、次のように言いました。「天です。」（ヘブライ人への手紙 12:26）啓示は、この声が「いつ」聞こえるかについて具体的に示しています。

恵みが終わるとき、神は地上の罪を犯した住民に怒りを注いで正義を執行されます。彼らの中で神の怒りが成し遂げられるからである。」

（黙示録 15:1）。そして、神の声が地球を揺るがすのは第七の災いのときである。そして聖所から玉座から大きな声が聞こえ、「終わった」と言った。そして稲妻と声と雷鳴が走った。また、人類が地球上に存在して以来一度もなかったような、非常に大きな地震も起こりました。」（黙示録 16:17,18）

七つの災い

第七の疫病

|-----|

終了、時間切れ

神の声

神の恵みの

地球を揺るがす

「それは完了しました」（黙示録 16:17）。これらの言葉は意味に満ちています。キリストの王国の設立は何年も遅れていますが、それは神が地上の教会の出現の準備が整うのを待っているからです。将来、イエスがついに地上から自分のものを集めた瞬間に連れて行かれ、ヨハネは天の住人たちの宣言を聞いた。「小羊の結婚が到来し、彼の妻は準備を整えた」（黙示録19:7）。このことから、私たちは地上でキリストの国の到来を早める役割を担っていることが分かります。神は教会の準備が整うのを待っています。として？「彼女に与えられたのは、清潔で明るい上質の亜麻布を着ることでした。上質の亜麻布は聖徒たちの義だからである。」

19:8) 私たちは罪の奴隷から義を行う者に変えられなければなりません。

「被造物の熱烈な期待は神の子たちの出現を待っているからです…全被造物は今に至るまでうめき、産みの苦しみを続けています…救いを待っています。」

（ロマ 8:19,22,23）。神の教会における神の働きが完了したとき、教会が悪の選択から善の選択に転じ、キリストの力によって罪を捨て、神と隣人への愛のうちに神聖のうちにキリストとともに歩んだとき、神はこう言われるだろう。「終わった」。そのとき、キリストの国が確立されます。そのとき、第七のラッパが鳴り響き、キリストがその花嫁である地上の聖徒たちの教会を捜すために天から出発することを告げるかもしれません。そうすれば、花婿を迎える準備がすべて整っているので、キリストが戻ってくることができます。

第10章 - 第7のラッパ

「そして、七つの雷の音が聞こえたとき、私はそれを書こうとしましたが、天からの音が聞こえました、「七つの雷が言ったことを封印し、それを書くのはやめなさい」。そして、海と地の上に立っているのが私が見た天使は、手を天に上げ、永遠に生きておられる方、天とそこにあるもの、地とそこにあるものを創造された方にかけて、こう誓った。そして海とそこにあるもの、これ以上遅れることはありません。しかし、第七の御使いの声の日に、彼がラッパを吹くとき、神が神の僕である預言者たちに告げられたとおり、神の奥義は成就するであろう。」（黙示録 10:4-7）。

ヨハネは神の声を聞いたとき、その言葉を書きたかったのですが、やめるよう命じられました。これは男性の理解から隠されているどのような情報でしょうか？物語の順序は理解するのに役立ちます。ヨハネは、私たちがイエスであると知っている天使が、永遠に生きておられる方、永遠の神に誓って、これ以上遅れることはないと言ったのを目にしました。これ以上遅れがないとしたら、それはイエスが二度目に地上に戻ってくるからです。封印された情報は彼の再臨に関係しています。聖書全体を通して、キリストは父なる神の代弁者として描かれており、キリストは言葉、つまり神の生ける言葉であり、至高者の法令を伝える者です。だからこそヨハネは、キリストがマリアの胎内で人間となった瞬間について、「そして言葉は肉となった」と述べているのである。

（ヨハネ 1:14）。しかし、次の箇所には、父から直接伝えられた啓示があり、イエスはこう言われました：「しかし、その日、その時のことは誰も知らない、天の天使たちも子も知らず、父だけが知っている。」（マタイ 25 章）:36)。復活した後も、弟子たちがこう尋ねると、「主よ、あなたは今この時にイスラエルに王国を回復されますか。

イエスは彼らに答えられた、「時や季節をあなたが知ることはできません。それは父がご自身の権威によって決めておられるのです。」（使徒1:6,7）。再臨の日と時刻は、父だけが与えることのできる啓示です。したがって、七つの雷に代表される神の音が発した言葉には、この啓示が含まれていることがわかります。人間が救い主との出会いの準備を遅らせて最後の瞬間まで放置するのは普通のことであることを考えると、キリストの来臨の日時を今日知るの都合がよいことではありません。さらに、この場合、人間の試練は救いのためにキリストを信じるかどうかではなく、むしろ時間だろう。これを例に挙げると、救いは「予定の時間にバスに乗れる」ということになります。したがって、創造主側としては、預言者が再臨の日付を報告しないようにするのが賢明でした。神は時間が試練であることを望んでおられるのではなく、むしろ神の愛に対する人間の心の反応を望んでおられます。承認または拒否がありましたか？もし受け入れられるなら、たとえ至福に入るまでにエノクのように300年歩く必要があったとしても、その人はそうするでしょう。彼の従順は愛からであって、ご都合主義や報酬への欲求からではないからです。

10章の幻に戻って、私たちはイエスの言葉に注目します。しもべたち」（7節）。この文章では時間について指摘されています。

第七の天使がラッパを吹くとき、神はついに、七つの雷に匹敵する声、天と地を揺るがす声で、イエスの到来の日と時間を告げる。地上での宣教中、神はこう言われました。「父よ、あなたの御名を讃えましょう。すると天から声が聞こえてこう言った、「わたしは彼の栄光を讃えた、そしてまた彼を讃えるだろう。」しかし、誰もがその言葉の意味を理解できたわけではありません。「さて、そこにいてその音を聞いていた群衆は、雷が鳴ったと言いました。「天使が彼に話しかけた」（ヨハネ12:28,29)と言う人もいます。将来、イエスの時代のように、多くの邪悪な人々が聞こえるのは、

雷が鳴っても、神の僕たちは神の言葉を理解し、愛する救い主の到来の時を知って喜ぶでしょう。聖書が明らかにしているように、ラッパの「響き」に象徴的に匹敵するこの輝かしい出来事のすぐ後に、信者たちはキリストが天の雲の中に戻ってくるのを見るでしょう。その後、彼らは不滅の栄光をまとい、救い主イエスを受け入れ、その来臨を愛した人々に約束された永遠の報いを受け取るために天国に移されます。一瞬にして、オープニングで変身し、最後のラッパの音で目を閉じます。なぜなら、ラッパが鳴り響き、死者は朽ちない者としてよみがえらせられ、私たちは変えられるからである…そのとき、書かれている言葉が成就するであろう、「死は勝利に飲み込まれる」。(1コリント 15:51,52,54)。

「というのは、主ご自身が大声で、天使長の声で、神のラッパとともに天から降りて来られ、キリストにある死者たちがまずよみがえられるからである。そのとき、生き残っている私たちも彼らとともに雲に引き上げられ、空中で主に会い、永遠に主とともにいることになります。」(1テサロニケ:1)

4:16,17) 。したがって、第七の天使がラッパを鳴らしたとき、ヨハネは、天の住人たちがキリストの国の到来と、地球を破壊する悪人たちの滅びと裁きを宣言するのを聞きました。

「すると、第七の天使が鳴り響き、天に大きな声が上がってこう言った。『世界の王国は私たちの主とそのキリストの王国となった、そして彼は永遠に統治するであろう。』そして、神の御前に玉座に座っている二十四人の長老たちは、ひれ伏して神を礼拝し、こう言いました。あなたは偉大な力を持って君臨していました。そして国々は怒り、あなたの怒りが来て、彼らが裁かれる死者の時が来て、預言者たち、あなたのしもべ、聖徒たち、そしてあなたの御名を恐れる者たちに報酬を与える時が来ました。小さいものも大きいものも、そして地球を破壊する者たちを滅ぼす時が来ました。そして、神の神殿が天に開かれ、神の契約の箱が神の神殿に見られました。そして稲妻、声、雷鳴、地震、そして大規模な雹が起きました。」(黙示録 11:15-19)。

天の住人たちが地球に向かう姿勢をとったとき、救い主よ、地上の聖徒たちの教会を携挙してください。第三の天使の脅威は成就し、神の怒りの杯が大雹の形で注がれます。

「そして、いなずま、声、雷鳴、地震、そして大規模なひょうが起きました」(黙示録 11:19)。「声と雷鳴と稲妻があった…そして神は大いなるバビロンから、彼女に怒りの憤りを表すワインの杯を与えることを思い出された…そして大粒の雹が天から人々の上に降った。それは一タラントほどの重さの石だった。人々は雹の疫病のせいで神を冒瀆した、なぜならその疫病が非常に大きかったからである」(黙示録 16:18-21)。

専門家によると、1タラントは今日の測定では34キロに相当する。そのような口径の石は間違いなく悪人を殺すでしょう。聖徒たちを迫害する者たちは滅ぼされるでしょう。キリストとその天使たちが地上に彼らを捜しに天から降りてくると、神の民は迫害と苦悩から救われるでしょう。なんと素晴らしい日になるでしょう！数千年にわたる罪と死の後、ついに悲しみと痛みで終止符が打たれ、キリストを受け入れた人々は永遠に救われるでしょう。「というのは、主ご自身が大声で、天使長の声で、神のラッパとともに天から降りて来られ、キリストにある死人が最初によみがえるからである。そのとき、生き残った私たちも彼らとともに雲に引き上げられ、空中で主にお会いし、永遠に主とともにいることになります。」(1テサロニケ4:16,17)。ああ、今日は何と素晴らしい日になるでしょう！そして七つのラッパの啓示は、それが私たちの時代に成就することを示しています。

私たちはそれを目撃する世代です！なんと素晴らしい特典でしょう！私たち全員がそれに向けて適切に準備されていることを願っています。アーメン、主イエスよ、さあ来てください！

「彼らは二度と飢えることも、喉が渇くこともありません。太陽も熱も当たらない
なぜなら、王座の真ん中にある小羊が彼らを牧し、命の水の泉への導き手として役立つからです。そうすれば神は彼らの目から涙をすべてぬぐってくれるでしょう。」 「以前のものは過ぎ去ったので、もはや死も悲しみも叫びも痛みもありません」 （黙示録7:16,17; 21:4）。

親愛なる読者の友人の皆さん、この本を通じて、明確かつ直接的な言葉で未来が明らかになったので、今日決断できるようになります。神とイエスはあなたを愛していて、あなたに永遠の命を与えたいと思っています。彼らが期待しているのは、あなたがカルバリの十字架で与えられた罪の赦しを受け入れることによって、自分が神の聖法である十戒に違反していることを認識し、それによって心の中でイエスを大切にすることだけです。彼は言います。「見よ、私はドアのところに立ってノックしています。誰かがわたしの声を聞いてドアを開けるなら、わたしは彼の家に入って彼と食事をし、彼もわたしと一緒に食事をするだろう。わたしが勝利して父とともに御座に座ったように、勝利する者には、わたしとともにわたしの御座に座ることを許します」 （黙示録3:20,21）。この呼びかけは個人的なものであり、神を受け入れて私たちの心と思いの中に留めておくようにという呼びかけです。これは、聖体拝領、神との生活、例えば祈りの中で神と話すこと、聖書を研究すること、神の言葉に従うことによって可能になります。明日は今日明らかになります。自分の運命を選択するのはあなた次第です。イエス、その従順と生涯、あるいはサタン、その反逆と死。「耳のある者は、霊が教会に言うことを聞かなければなりません」 （黙示録3:22）。キリストの呼びかけを聞いてそれに応える者の一人になりましょう。それが私たちの心からの願いであり、祈りです。アーメン！

著者と編集者。